712

授業科目名	**教育学概論**				
担当教員名	**山本智也**				
学年・コース等	1・2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	山本：家庭裁判所調査官として心理学、社会福祉学、教育学などの専門的な知識や技法を活用し、家庭内の問題の解決や非行少年の立ち直りに向けた「調査」や「調整」を担当。（第2回）				

授業概要

本科目は、教育の概念、思想、歴史、制度、内容、方法等について基礎的、体系的な理解を深め、人間にとって教育とは何かを考えることを目標とする。しかし、様々な子どもや家族をめぐる諸問題に当面している現在、教育の意義を単に知識としてのみとらえるのでは不充分である。そこで、この授業では、教育をめぐる現実の問題状況をどのようにとらえ、どのようにして解決に取り組んでいくのかという現実を原点とした営みとして教育をとらえる臨床教育学の視点を重視して教育の意義・目的を考えていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育思想・歴史的展開の理解	教育に関する様々な思想を理解した上で、その今日的意義を理解できる。 教育の歴史的展開をとらえ、近代教育制度の成立と展開を理解できる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもの現状を踏まえた上で、教育をめぐる課題を発見し、解決の方向性を考えることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験	40 %	： 教育の歴史、思想について的確に理解することができているかを評価の基準とします。
レポート	15 %	： 教育思想家を一人取り上げ、その思想の今日的意義についての理解度を評価の基準とします。
授業への参加度	45 %	： 各授業回のテーマに関する予習シート（30%）、各授業の最後に提出する小レポート（15%）

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

西川信廣・山本智也編　「現代社会と教育の構造変容」　ナカニシヤ出版　2018年 ISBN:9784779512650

教育思想史学会編　「教育思想事典 増補改訂版」　勁草書房　2017年　ISBN:978-4-326-25122-3
広田照幸　「日本人のしつけは衰退したか　「教育する家族」のゆくえ」　講談社　1999年 ISBN:978-4061494480
ポルトマン　「人間はどこまで動物か－新しい人間像のために」　岩波書店　1961年　ISBN:978-4004161219
デューイ　「学校と社会」岩波書店　1957年 ISBN:978-4003365229
デューイ　「民主主義と教育」(上下)　岩波書店　1975年　上のISBN:978-4003365236 下のISBN:978-4003365243
デューイ　「経験と教育」　講談社　2004年　ISBN:978-4061596801
ルソー　「エミール」（上中下）　岩波書店　1962年 上のISBN:978-4003362211 中のISBN:978-4003362228 下のISBN:978-4003362235

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業初回にお知らせします。

場所：　授業初回にお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育をめぐる今日的状況と課題** 教育をめぐる今日的な状況について確認した上で、教育をめぐる課題を理解していきます。	授業に先立ち、テキストを通読しておくこと。	4時間
第2回	**子どもをめぐる問題と教育** 少年非行、ひきこもり、児童虐待など子どもをめぐる問題について、その動向を確認した上で、こうした問題に対して教育の役割を考えていきます。	予習シートの作成（子どもの問題行動について）	4時間
第3回	**人間形成における教育の意義** 人間の発達について理解していくことを通して、人間にとって教育の意義を考えていきます。	予習シートの作成（生理的早産について）	4時間
第4回	**学校の成立と展開** 学校の歴史的経過について踏まえ、その社会的な意味について考えていきます。	予習シートの作成（学校の存在意義について）	4時間
第5回	**近世以前の日本の教育** 古代から近代までの日本において、どのような変遷をたどってきたかについて考えていきます。	予習シートの作成（日本の教育の歴史について）	4時間
第6回	**近代以降の日本の教育** 近代以降、特に戦後日本の教育について、学習指導要領の変遷を踏まえつつ、考えていきます。	予習シートの作成（日本の学校教育制度の歴史について）	4時間
第7回	**西洋教育思想の歴史と展開（ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイを中心に）** 西洋教育思想を概観した上で、今日の学校教育、教育改革にどのような意味を持つものなのかを考えていきます。	予習シートの作成（教育における開発主義と注入主義について）	4時間
第8回	**教育制度と教育法規** 戦後日本の教育法政の体系を踏まえた上で、今日の教育制度をめぐる課題を考えていきます。	予習シートの作成（教育基本法の改正について）	4時間
第9回	**学校・学級経営の機能と構造** 学校経営・学級経営それぞれの機能と構造について考えていきます。	予習シートの作成（学校経営計画について）	4時間
第10回	**子どもの「育ち」を支援するために** 児童・生徒一人一人の人格を尊重していくとはどういうことなのかを対人援助の実践理論を通して考えていきます。	予習シートの作成（生徒指導の２つの側面について）	4時間
第11回	**教育課程・教育方法の変遷と子どもの学力** 教育課程・教育方法の変遷について、戦後の学習指導要領の変遷を中心に理解を深めていきます。	予習シートの作成（学習指導要領の変遷について）	4時間
第12回	**地域とともにある学校づくり** 学校評議員制度、学校運営協議会の制度化、コミュニティ・スクールといった学校をめぐる状況を理解した上で、コミュニティの課題を考えていきます。	予習シートの作成（コミュニティ・スクールについて）	4時間
第13回	**家庭教育支援の方向性** 今日の子育て家庭の課題を踏まえた上で、家庭教育支援の歴史及びその方向性を考えていきます。	予習シートの作成（家庭教育支援条例について）	4時間
第14回	**教育の機能　－人間関係と教育－** 学びにおける他者・対話の存在を考えた上で、教育とは何かを問い直していきます。	予習シートの作成（学びの共同体について）	4時間

712

授業科目名	**教職論**				
担当教員名	宮崎大樹				
学年・コース等	1・2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立小学校教諭（17年）、校長（８年）、大阪市教育委員会事務局（13年）の勤務経験（全14回）				

授業概要

教育は教員の人間性や専門性などが大きく関わっており、それゆえ「教育は人なり」といわれてます。本授業では、教職の意義や教員の役割、教員をとりまく様々な事象を考察し、今日求められている教員の職務内容について理解するとともに、教員としての人間性、資質・能力などの素地を高め、自覚･責任感をもって進路選択ができるようにします。授業では教育関連法規や教育現場の具体的な事象を取上げ、現職教員による講話も交えて進めていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教師としての基礎的資質に関する知識	生徒の育成を目指す教員として学習指導、服務などに関する知識を身につけることができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教職とは何かについて学び、教師の使命や職責について考えていく。	自己の理想とする教師･保育者像を確立する。 自己の理想とする教師･保育者像を確立する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学校現場の現状を見据え、教師を取り巻く課題を見出す力を養うことができる。
2. DP７.忠恕の心		他者の意見を尊重しながら積極的にコミュニケーションを図ることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
定期試験レポート	50 %	： 内容の妥当性と論理構成などの観点から、独自のルーブリックに基づいて評価をします。
授業のなかの課題（ミニレポート）	30 %	： 教師としての基礎的資質に関して、知識理解と表現力などの観点から独自のルーブリックに基づいて評価をします。
受講状況	20 %	： 授業中の学習意欲、受講態度（私語、携帯電話の使用など授業と関係がない行為をした場合は減点対象とします。）提出物などを、チェックリストを活用し、総合的に評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜授業で紹介します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します。

場所：　初回授業時に周知します。

備考・注意事項：　メールでも受け付けます。（katoh-h@osaka-seikei.ac.jp）

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーションと教職の意義** 授業の受け方や提出物等の出し方などを理解するとともに、教職について学ぶことの意義を理解し今後の授業の見通しを把握する。また、職業としての教師について考察します。 キーワード：教師像	教職の意義のなかで教師とは何であるか復習し、自身が目指す教師像を述べることができるようにする。	4時間
第2回	**学校教育の現状と課題** 教員の定年による大量退職と若手教員の増加、少子化問題による学校数・学級数の減少化、学力問題、いじめ、非行、暴力などについて知る。 キーワード：教育現場における諸問題－いじめ、不登校、体罰、校内暴力等	教育の諸問題のうち学力について調べてまとめてくる。	4時間
第３回	**教職についての社会の見方** 教員の失態は社会で問題になりやすい。言動や身なり、教養、博識など人々の教員の捉えかたについて理解する。 キーワード：教員としての基本的な資質	教員の品格について問題となることが予想される事象を調べてくる。	4時間
第4回	**求められる教員の資質能力(1)－教員としての人間性－（現職教員の講話）** 教員として授業ができる基礎知識、児童・生徒や保護者などを受けれる受容的な態度などを身につけた豊かな人間性について理解する。また、教員は授業が勝負であると言われ、一人一人の児童・生徒に応じた授業ができることは教員にとって必須である。このような趣旨を踏まえ、授業力とは何か、また児童・生徒の育成に間接的にかかわる事務処理能力、交渉能力・対応能力などについて理解する。講話は場合によっては視聴覚教材を活用することもある。 キーワード：現職教員から学ぶ	教員の心身の健康と児童・生徒の関係や教師の授業力を高めるための取り組みをまとめるをまとめる。	4時間
第５回	**教職員の種類と資格** 教員の免許について、その種類や職務内容そして取得に必要な履修科目等について理解するとともに教員以外の職員の職務についても知る。 キーワード：教員免許の種別、取得条件、教職員の職務	学校教育に携わるうえで必要な公的資格をまとめ、説明できるようにする。	4時間
第６回	**教員の身分保障** 教員の出勤時刻や退勤時刻、および問題対応の時間などと労働基準法との関係について知り、勤務条件と実際の勤務および服務について理解する。 キーワード：学校の１日、服務	教員の服務規程を一覧表にまとめ、説明できるようにする。	4時間
第７回	**教員研修と向上心（指導体制の充実のための研修）** 教員の研修はかならず取り組まなければならないことである。研修は義務としての研修と自己向上のための研修に大別でき、それぞれ具体的な事柄を取上げる。研修は教員にとって重要であることを理解する。 キーワード：研修を通して学び続ける教員	研修の種別と必要性をまとめ、その意義を説明することができるようにする。	4時間
第８回	**教員の力量と学習指導** 中学校及び高等学校の専門教科など、教科指導の進め方、そして児童・生徒の実態を理解しながら授業を展開することを理解し、教員の力量を向上させることの大切さを理解する。 キーワード：教えるプロ、教科指導法の重要性	教科指導と生徒指導の両輪関係を述べることができるようにする。	4時間
第９回	**校内組織と教員の力量（校長を中心とした校内組織と補佐）** 校務は学校に在籍する教職員で分担して運営される。校務分掌の内容と学校組織について知り、教務、研究、生活指導をはじめ種々の校務があることと、校務を担ううえでの個人の適性について理解する。 キーワード：校務分掌	校内の職務としての校務分掌を事前に調べてまとめてくる。	4時間
第10回	**校務分掌とその実際**	校務分掌の実際で学んだことから長所と短所をまとめ短所の改善策を考えることができる。	4時間

	校務分掌の内容を、学校運営上必要である教務、研究、生徒指導、保健などの校務の実際の様子と課キーワード：校務分掌		
第11回	**学校外の職務と教員の関わり** 地方の教育行政（区役所イベントなど）、警察署、消防署、医師会、青少年指導委員会などと学校の職務との関連について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互協力が重要であることと教員のかかわりについて理解する。 キーワード：地域・諸機関との連携	学校と関係機関のつながりを図式的にまとめることができる。	4時間
第12回	**教職員等と学校関係者等との連携協働（チーム学校運営への対応）** 地域の学校という意識、地域の連合組織と学校・教員の関連、地域の一員である家庭について知り、児童・生徒の健全育成にとって相互連携が必要であることを理解する。 キーワード：チーム学校	学校、家庭、地域の連携の重要性をまとめることができる。	4時間
第13回	**教員をめぐる事件・事故** 不審者侵入、交通事故、学校事故などの学校安全管理や飲酒運転、セクハラなど教職員の不祥事や事案が起こる背景について知り、教職員のあるべき姿について理解する。 キーワード：教員のモラル、「教職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律(令和３年法律第５７号)」	学校の安全管理（校内外）をまとめ、発表できるようにする。	4時間
第14回	**まとめと授業全体の振りかえり** 教員として教育現場に赴く際、一人一人の児童・生徒への深い愛情と理解にもとづき、熱意をもって指導にあたれる理想としての教員像を描くことができるようにする。さらに自己教育力を磨き高めるうえで、自己の課題を捉えることができる。 キーワード：４年間を見通した学ぶべき課題	教員を目指す上での課題を明確にできるようにまとめることができる。	4時間

713

授業科目名	**教育社会学**				
担当教員名	西徳宏				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本科目はまず、人間形成の役割を担う教育の在り方について、教育社会学の理論や知見をもとに理解することを目的としている。教育に関する「常識」や「思い込み」を問い直し、教育と社会の在り方について多角的に見つめ直すことをめざす。具体的には、初めに教育社会学の基本的な考え方や主要テーマについて学んだ後、不平等、社会的包摂、国際化といった教育についての現代的課題を検討し、教育者としての幅広い視野と知識を身に着けることをめざす。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育の社会学に関する知識	学んだ知識を用いながら社会学的な視点から教育について改めてとらえなおすことができる。
汎用的な力		
1. DP７.忠恕の心		相手の意見をよく聴いた上で他者の感情に配慮しつつその問題点を指摘し、自己の意見の正当性を筋道を立てて相手に分かりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
シャトルシート	30 %	： 授業内容を的確にまとめ理解できているか、という観点から評価する。
試験	70 %	： 授業で扱った教育社会学にかかわる教育テーマについて正しく理解し、自らの見解を説得的に示す事ができているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

相澤真一ほか『これからの教育社会学』（有斐閣，2023年，ISBN ISBN9784641200036）
中村高康ほか『現場で使える教育社会学』（ミネルヴァ書房，2021年，ISBN9784623092604）
酒井朗ほか『アクティベート教育学03 現代社会と教育』（ミネルヴァ書房，2021年，ISBN9784623092475）

履修上の注意・備考・メッセージ

「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、適宜映像資料も用意する。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 備考参照

場所： 備考参照

備考・注意事項： オフィスアワーについては最初の授業でお知らせします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育における今日の課題** 教育社会学とはどのような特徴を持つ学問領域なのか。また、どのように発展してきたのか。これらのことから教育社会学を学ぶ意義について考えます。加えて教育社会学という学問領域について、現在の教育社会学研究のトレンドと課題を中心に学習し、教育社会学を学習するために必要な基礎知識の習得を目指します。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第2回	**近代の教育行政と学校制度** 近代に入ると国が学校を作り、国民は学校に行くことになった。国が学校制度を整備したのはなぜなのか。また、その結果、日本の教育はどのように変わったのか。こうしたことについて考えます。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、教育評価の現状と課題について理解を深める。	4時間
第3回	**近代家族と教育** 教育社会学において議論されてきた「教育」と「家族」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における家族と教育の問題について考察していきます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育と家族の関係について理解を深める。	4時間
第4回	**学校と地域の連携** 子どもの成長には、学校のみならず地域の影響も大きい。特に近年では学校と地域が協力して子どもの教育にあたることが重要視されている。そのための取り組みや課題について考えます。	講義の内容を配布資料及び映像資料を用いて復習し、地域連携について理解を深める。	4時間
第5回	**子どもの生きづらさと学校の役割** いじめ、不登校、引きこもりなど、今日の子どもたちは様々な生きづらさを抱えている。ただそれは子どもたちだけの問題ではなく、社会の仕組みや不安定さとも深くかかわる社会全体の問題でもある。こうした課題に学校や教育が果たせる役割について考える。	講義の内容を復習し、課題を抱える子供たちに教員として何ができるかについて理解を深める。	4時間
第6回	**若者の「移行」の今日的課題** 教育社会学において議論されてきた「教育」と「進路」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における子ども・若者の進路選択やキャリア形成の問題について考察していきます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育と進路の関係性について理解を深める。	4時間
第7回	**教育課題と教師の実践** 教育社会学において議論されてきた「生徒指導上の課題（特に逸脱行動）」と「学校」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、学校で「問題」とされる事象に対して、どのように学校制度・組織や教師が対応してきたかを考察します。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育課題と学校の関係性について理解を深める。	4時間
第8回	**ジェンダーと教育** 教育社会学において議論されてきた「教育」と「ジェンダー」の関係性について学習します。理論的変遷を踏まえつつ、現代社会における教育の男女格差やジェンダー・トラックなどの問題について考察していきます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育とジェンダーの関係性について理解を深める。	4時間
第9回	**特別支援教育とインクルージョン** 支援が必要な子どもたちに等しく教育の機会を与えようとするインクルーシブ教育の考え方や取り組みが広がっている。主に日本のインクルーシブ教育の歴史と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間
第10回	**学校安全と防災教育：災害・事故のリスク管理** 阪神大震災や東日本大震災の経験から災害時の教員や学校の対応が注目されている。また、学校内での事故や事件も後を絶たない。教員の緊急対応や平時から学校安全のためにしておくべきこと、防災教育等について検討する。	講義の内容を復習し、教員としての緊急時の対応について理解を深める。	4時間
第11回	**日本の多職種協働と教育** 近年、学校では教育問題に対して、教員だけでなくスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどさまざまな専門職が協働して取り組むようになっています。「チームとしての学校」など日本の教育における多職種協働について考察します。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、学校教育における多職種協働について理解を深める。	4時間
第12回	**諸外国の多職種協働と教育**	講義の内容を配布資料を用いて復習し、これからの教師のあり方について自分なりの考えを深める。	4時間

	諸外国の教育における多職種協働について概観したうえで、教師の専門性についての議論を学習します。これからの教師のあり方について、グループでの議論も踏まえながら考察します。		
第13回	**教育と格差問題** 近年、世界的に社会の格差が広がっており日本も例外ではない。そしてその格差は教育における格差や不平等を生むこととなる。教育の格差や不平等の現状とそれらがいかにして再生産されるのかについて考えます。	講義の内容を配布資料を用いて復習し、教育格差の問題について理解を深める。	4時間
第14回	**国内外の教育施策の動向** 世界の主要な国々の教育施策の動きと比較しながら日本の教育を検討する。そうすることで日本の教育の特徴と課題について考えます。	講義の内容を復習し、教育社会学研究の現状と課題について理解を深める。	4時間

712

授業科目名	**教育心理学**				
担当教員名	水谷聡秀				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

「教育心理学」は心理学の一領域で、教育に関連する諸事象を心理学的に研究し、教育の効果を高めるために役立つ心理的知見と心理的技術を提供しようとする学問である。本講義は、発達、パーソナリティと知能、学習と教育評価、動機づけを取り上げ、一人ひとりの子どもの発達の特性や個に応じた教育的対応や集団の状況に応じた指導・援助についての理解を深め、心理学的知見に基づく教育観を醸成する。なお、Google Classroomで授業を行い、原則的に毎回ウェブ上で小レポートを記入してもらい、意見の共有などを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	教育心理学に関する基本的知識	教育心理学の基本的な事項について理解し、説明することができる。
汎用的な力		
1. DP3.地域の特徴や地域で生活する様々な世代の人々の健康課題を理解し、また他の医療専門職者と協働して健康課題を持つ人々への看護支援ができる		与えられたテーマについて意見を述べ、他の学生と意見を交換することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

・その他(以下に概要を記述)

提出後の授業で、全体的な傾向あるいは特定の学生の小レポート等を取り上げてコメントする。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
振り返り・小レポート提出	42 %	： 毎回、小レポート等を記述して、期限までに提出したもので評価する。
小テスト	48 %	： 教育心理学の基礎知識と応用力で判断する。
期末レポート	10 %	： 授業で学んだこと活かして十分に論じていることができているかで判断する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年

安齊順子・荷方邦夫（編）　・「使える」教育心理学＜第4版＞　・北樹出版　・2021　年

参考文献等

守 一雄（著）『教育課程コアカリキュラムに対応した教育心理学』 松本大学出版会、2019 ISBN:978-4902915259
鎌原 雅彦・竹綱 誠一郎（著）『やさしい教育心理学 第5版』 有斐閣、2019 ISBN:978-4641221468
山崎 史郎（編） 『教育心理学ルック・アラウンド わかりたいあなたのための教育心理学』 おうふう、2010 ISBN:978-4273035891

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業時間の前後

場所：　Google Classroom

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　教育心理学とは何かを明らかにしよう** 教育心理学の定義、領域について概説し、この講義の進め方等について解説します。	シラバスを熟読する。教育心理学の定義、領域と内容を説明できるようにする。	4時間
第2回	**発達と教育（１）発達とは何か** 発達の定義、規定するもの、基本となる代表的な理論について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第3回	**発達と教育（２）発達の諸相** 発達段階と各段階の特徴について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第4回	**学習の理論** 学習の定義、基本となる代表的な学習理論の概観、記憶について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第5回	**教授と学習** 代表的な教授理論を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第6回	**動機づけの理論** 動機づけ、原因帰属、自信と無気力について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第７回	**知能と学力** 定義、代表的な理論，測定法、知能と学力の関係について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第8回	**中間まとめ** 前半の学びを振り返り、深めます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第9回	**教育の評価・授業の実践と研究** 子どもを生かす教育評価を概観し、心理学を生かした授業実践について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第10回	**学級集団** 心理学を生かした学級集団づくりについて学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第11回	**パーソナリティの問題と生徒理解** 定義、代表的な理論、社会性や道徳性に関する理論を概観します。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第12回	**いじめと不登校** 教育心理学の立場からいじめと不登校について学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第13回	**障害のある子どもへの支援** 支援を要する子どもへの支援のあり方を学びます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。テキストで次時の予習を行う。	4時間
第14回	**総括** 本科目を受講して、得たものと今後の学修のあり方について考えます。	本時の学習内容について追加学習し、ノートにまとめる。	4時間

713

授業科目名	**特別支援教育概論**				
担当教員名	益子典子				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	大阪市立中学校で４年間、大阪府下の支援学校で35年間（うち教頭として５年間、校長として９年間）勤務する。				

授業概要

近年、全国的に特別支援を必要とする子どもたちの数が増えています。そうした子どもたちの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、特別支援教育に必要な基礎的・基本的事項について実際的な講義を進めていきます。特別支援を学ぶことによって子どもの発達や特性を理解し、子どもの支援指導に積極的に取り組むことができる人材の養成を目指します。授業の形態としては、講義を視聴する、まとめを提出する、という流れになります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.データとその扱いの基礎	特別支援教育に関する知識	「障害」についての基礎的な知識を習得するとともに、教育的支援に必要な制度及び組織のあり方について理解する。
汎用的な力		
1. DP５.データサイエンスによる実践の完遂		専門的知識を活用し、個々の児童の状況把握と支援への方策を立案できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・eラーニング、反転授業

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のリアクションペーパー（３点×１４回）	70 %	： 毎回、講義の復習テスト(対面授業)、まとめや感想(遠隔授業)を求める。
期末レポート（30点）	30 %	： 講義内で学んだ知識が正確に述べられているか、自らの問題として捉えられているか、主張が論理的かを重視する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特別支援学校―幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部　（文部科学省　2015　4303124249）
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)　（文部科学省 2015　4304042319）
【新訂版】特別支援教育の基礎基本　独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
（ジアース教育新社　2020年　978-4863715486）

【改訂版】特別支援教育基本用語100　（明治図書出版　2014年　978-4-18-108510-0）
障害のある子供の教育支援の手引き　（文部科学省　2022　4863716133）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　メールにて対応する。メールには、必ず氏名と所属を記すこと。
メールアドレスについては、講義初回に提示する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「障害」とは何か** 障害概念についての基礎的内容。ICFモデルの説明。近年の社会的問題（臓器移植や出生前診断）の話題から自己の問題として捉える。	講義内容について復習する。	4時間
第2回	**「支援」と「合理的配慮」を考える** 「支え合い、援ける」という関わりについての根源性を問う。障害者権利条約、障害者差別解消法の説明から「合理的配慮」概念について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは講義中に提示する（キーワードの一例：ICFモデル　障害者差別　合理的配慮　当事者主権など）。	4時間
第3回	**障害児教育の歴史・変遷：特殊教育から特別支援教育へ** 国内外の動向を概観し、世界的潮流の中で日本の障害児教育がどのような変遷をたどったかを知るとともに、特別支援教育の理念と基本的な考え方を理解する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：就学義務　養護学校制度　中央教育審議会　ウォーノック報告など）。	4時間
第4回	**特別支援教育の制度（１）：個別の教育支援（指導）計画/特別支援教育コーディネーター** 個別の教育(指導)計画書の内容や役割及びそれらの書き方、コーディネーターの役割について、具体例を提示し解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは講義中に提示する（キーワードの一例：個別の教育支援計画　個別の指導計画　特別支援教育コーディネーター　医療的ケア　など）。	4時間
第5回	**特別支援教育の制度（２）：進路/校内支援体制/センター的機能/地域連携** 校(園)内委員会にかかわる支援体制整備及びその役割と実際について解説する。 教員間及び専門職間連携について、就労移行支援や障害者福祉の現状なども踏まえ、解説する。 特別支援学校のセンター的機能について大阪府の実例を示しながら解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：特別なニーズ　発達検査　校内支援会議　センター的機能　など）。	4時間
第6回	**特別支援教育の制度（３）：インクルーシブ教育と共生社会 自立活動** 近年の各国の教育環境との比較を通して、インクルージョンの理念と日本の現状を提示する。 インクルーシブ教育システムの構築に向けて必要な「個が生きる授業づくり・学級づくり」について、小学校等の実例を挙げながら解説する。 共生社会の実現に向けた取り組みである「交流及び共同学習」について、小学校等の実例をあげながら解説する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは、講義中に提示する（キーワードの一例：インクルージョン　インテグレーション　通級による指導　交流及び共同教育　など）。	4時間
第7回	**特別支援教育の理論と方法（１）：視覚障害　聴覚障害** 視覚障害教育及び聴覚障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 デイジーや手話、点字などの体験を通して、視覚障害及び聴覚障害のある子供への支援について理解を深める。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは弱視　点字　手話など	4時間
第8回	**特別支援教育の理論と方法（２）：発達障害** 発達障害教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 当事者の体験談や錯視図形の体験等を通して、発達障害のある子供の不便さを体験し、発達障害のある子供に寄り添った支援について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは自閉スペクトラム症　ADHD　LDなど	4時間
第9回	**特別支援教育の理論と方法（３）：肢体不自由　重複障害　病弱** 肢体不自由教育・重複障害教育及び病弱教育について、障害特性の理解、具体的教育指導内容や方法を取り上げる。 身体的な制限だけでなく、そのために生じる日常生活の不便について知り、その支援について考える。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは院内学級　筋ジストロフィー　てんかん発作など	4時間
第10回	**特別支援教育の理論と方法（４）：応用行動分析等**	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードはS-R理論　先行条件　機能的アセスメント	4時間

	応用行動分析について学び、実例をもとにしたワークを通して、実践力を養う。		
第11回	**特別支援教育の理論と方法（５）：ソーシャルスキルスキルトレーニング(SST)　ペクス(PECS)等** ソーシャルスキルスキルトレーニング(SST)及びペクス(PECS)について学び、実例をもとにしたワークを通して、実践力を養う。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードはアンガーマネージメント　アサーショントレーニング	4時間
第12回	**特別支援教育の理論と方法（６）：感覚統合等** 感覚統合について学び、実例をもとにしたワークを通して、実践力を養う。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは前庭感覚　ボディイメージ　目と手の協応	4時間
第13回	**障害と教育を巡る諸問題：障害者者差別/就労/福祉政策/貧困/外国にルーツのある家庭** 障害はないが、特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難とその対応について理解する。 障害のある子どもの進路について概観する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードは貧困、外国籍	4時間
第14回	**特別支援教育の理論と方法（７）：キャリア教育の実際と進路支援** 障害のある子どものキャリア教育及び進路支援について考察する。	指定する資料を参考に、キーワードについてまとめておく。キーワードはキャリアプランニング・マトリックス、勤労観、QOL	4時間

712

授業科目名	教育課程論				
担当教員名	星川佳加				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を学ぶとともに、実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について学びます。
学習指導要領や教育課程改革の変遷について、時代背景や教育思想等を踏まえながら学ぶとともに、各時代の教育課程の特徴と関連付けながら、教育課程編成の視点を学びます。また、教科・領域、単元・学期・学年をまたいで、教育課程を構想する視点について学びます。
講義を中心に行いますが、Google Classroom等を活用したコメント交流や、協同学習等のアクティブラーニングもとりいれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育課程に関する基礎的な知識・考え方	教育課程に関する基礎的な知識や考え方を修得することができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育課程に対する考察	教育課程に関する基礎的な知識・考え方を活用し、実際の教育課程の特徴と課題について考察することができる。
汎用的な力		
1. DP６.新しい教育課題に対応するセンス		他者と協同しながら現代の教育課題に対応するカリキュラムの在り方について考えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のミニテスト・ミニレポート	50 %	： 教育課程に関する基礎的な知識や考え方を修得できているかを判断します。
協同学習	30 %	： 他者と協同しながら、主体的に、現代の教育課題に対応するカリキュラムの在り方について考えることができているかを判断します。
定期試験（レポート）	20 %	： 定期試験（レポート）について、ルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治編著『よくわかる教育課程　第2版』（ミネルヴァ書房、2018年、ISBN　9784623082698）

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』（東山書房、2018年、ISBN9784827815801）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　オフィスアワー・研究室は初回授業時にお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション ／教育課程・学習指導要領とは何か** この科目のテーマである「教育課程」について、その定義やこれを編成する目的を学びます。また、学習指導要領の性格や位置づけなどについて学びます。	予習シートの作成：「確かな学力」	4時間
第2回	**学習指導要領の変遷（1）現代の学習指導要領** 2000年代以降の日本の教育課程の特徴について、学習指導要領を中心に学びます。また、当時の学習指導要領改訂の社会的背景について解説を受けます。	予習シートの作成：「生きる力」	4時間
第3回	**学習指導要領の変遷（2）「ゆとり教育」の時代** 1970年代末～1990年代頃の日本の教育課程の特徴について、学習指導要領を中心に学びます。また、当時の学習指導要領改訂の社会的背景について解説を受けます。	予習シートの作成：「系統主義」	4時間
第4回	**学習指導要領の変遷（3）「系統主義」の時代** 1950年代末～1970年代頃の日本の教育課程の特徴について、学習指導要領を中心に学びます。また、当時の学習指導要領改訂の社会的背景について解説を受けます。	予習シートの作成：「経験主義」	4時間
第5回	**学習指導要領の変遷（4）「経験主義」の時代** 戦後～1950年代末頃の日本の教育課程の特徴について、学習指導要領を中心に学びます。また、当時の学習指導要領改訂の社会的背景について解説を受けます。	予習シートの作成：「皇国民錬成」	4時間
第6回	**日本の教育課程改革の歴史（1）国民学校の時代** 1930年代末～終戦までの日本の教育課程の特徴について学びます。	予習シートの作成：「大正自由教育」	4時間
第7回	**日本の教育課程改革の歴史（2）大正自由教育の時代** 大正期の日本の教育課程の特徴について学びます。	予習シートの作成：「学制」	4時間
第8回	**日本の教育課程改革の歴史（3）近代学校誕生の時代** 明治期の日本の教育課程の特徴について学びます。ここまでの学びから、教育課程が社会において果たしている役割や機能について考えます。	予習シートの作成：「教育目標」	4時間
第9回	**教育課程編成の視点（1）教育の目標とカリキュラム** 教育課程を編成する視点について、教育目標に関する事項を中心に学びます。また、カリキュラム・マネジメントについて教育の目標との関連という側面から解説を受けます。	予習シートの作成：「カリキュラム・マネジメント」	4時間
第10回	**教育課程編成の視点（2）教育の評価とカリキュラム** 教育課程を編成する視点について、教育評価に関する事項を中心に学びます。また、カリキュラム評価の基礎的な考え方について解説を受けます。	予習シートの作成：「特別の教科 道徳」	4時間
第11回	**教育課程編成の視点（3）教科のカリキュラムと長期的視野に立った教育課程** 教育課程を編成する視点について、教科に関する事項を中心に学びます。また、単元・学期・学年、さらに学校階梯をまたいで、教育課程を検討することの重要性について解説を受けます。	予習シートの作成：「総合的な学習の時間」	4時間
第12回	**教育課程編成の視点（4）教科外のカリキュラムと教科や領域を横断する教育課程** 教育課程を編成する視点について、教科外に関する事項を中心に学びます。また、学校の教育実践に即して、教科や領域を横断して教育課程を編成する方法について解説を受けます。	予習シートの作成：「社会に開かれた教育課程」	4時間
第13回	**教育課程編成の視点（5）カリキュラムを支える教育環境** 教育課程を編成する視点について、教育環境に関する事項を中心に学びます。また、学校や地域の実態を踏まえて教育課程を検討することの重要性について解説を受けます。	予習シートの作成：「主体的・対話的で深い学び」	4時間
第14回	**教育課程編成の視点（6）子どもの姿とカリキュラム ／まとめ** 教育課程を編成する視点について、子どもの発達や実態に関する事項を中心に学びます。また、子どもの姿をふまえて教育課程や指導計画を検討することの重要性について考えます。最後に、これまでの学びについて振り返り、学習者自身の経験を相対化します。	これまでの学習を振り返る	4時間

712

授業科目名	教育課程論【DS・看護】				
担当教員名	蓑毛智樹				
学年・コース等	2年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目では、学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程についてその意義や編成の方法を学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントの意義について学びます。また、学習指導要領や教育課程改革の変遷について、時代背景や教育思想等を踏まえながら学ぶとともに、各時代の教育課程を特徴づける教育課程編成の視点を学びます。
GoogleClassroomを活用し、オンデマンド形式で授業を実施します。自ら必要な資料を探し、読み、レポートにまとめる等、主体的に学ぶ姿勢を求めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育課程に関する基礎的な知識・考え方	教育課程に関する基礎的な知識や考え方を修得することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		主体的に教育課程・カリキュラムに関する学習を進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

課題はGoogleClassroomで配信します。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

コメントはGoogleClassroomで配信します。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のミニテスト・ミニレポート	70 %	： 教育課程に関する基礎的な知識や考え方を修得できているかを判断します。
定期試験（レポート）	30 %	： 教育課程に関する基礎的な知識や考え方を活用し、実際の教育課程を分析し、その特徴と課題について考察することができているかを判断します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治編著『よくわかる教育課程　第2版』（ミネルヴァ書房、2018年、ISBN9784623082698）
文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』（東山書房、2018年、ISBN9784827815801）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項：　質問等はGoogleClassroomで受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション　：カリキュラム概念の範囲と射程** この科目のテーマである「教育課程」（カリキュラム）について学びます。また、カリキュラム・マネジメントの意義について学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第2回	**カリキュラムと教育目標** 教育目標の観点からカリキュラムについて学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第3回	**内容選択の基準** カリキュラムの内容を選択する基準について学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第4回	**カリキュラムの編成原理** 経験主義や系統主義などカリキュラムを編成する原理について学びます。教科や領域を横断して、学年や学校階梯を縦断して、教育課程を検討することについて学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第5回	**子どもの発達とカリキュラム** 発達という視点からカリキュラムについて学びます。子どもの実態をふまえて教育課程を検討する重要性について考えます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第6回	**学習指導要領と教科書** 学習指導要領の性格や位置づけについて学び、学校教育において教育課程が有する役割や機能を理解します。学習指導要領と教科書の関係等について学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第7回	**カリキュラムの社会学** 社会学的な観点からカリキュラムについて学びます。	予習シートの作成：「近代学校」「学制」	4時間
第8回	**カリキュラムを支える教育環境** 学校づくりや学級編成などカリキュラムに関る教育環境について学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第9回	**カリキュラムと評価** 評価という観点からカリキュラムについて学びます。カリキュラム評価の基礎的な考え方を学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第10回	**カリキュラムの履修スタイル** 履修主義と修得主義など履修スタイルの観点からカリキュラムについて学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第11回	**近年のカリキュラム改革の動向** プログラミング教育やメディア・リテラシー教育など近年のカリキュラム改革の動向について学びます。子どもや学校、地域の実態を踏まえて教育課程を検討する重要性について考えます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第12回	**日本の教育課程改革の歴史** 明治期から戦後に至るまでの日本の教育課程改革の歴史について学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第13回	**学習指導要領の変遷** 戦後日本における学習指導要領の変遷について学びます。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第14回	**まとめ：「私」の経験したカリキュラムの特徴** これまでの学びについて振り返るとともに、教育課程・カリキュラムという視点から、学習者自身の経験を相対化します。教育課程が社会において果たしている役割や機能について考えます。	これまでの学習を振り返る	4時間

941

授業科目名	**美術科指導法Ⅰ**				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	1年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

美術教育は、学校のみならず美術館などの文化施設や個人の絵画教室等幅広く実施されているものです。
本科目では、このような様々な機会で実施されている美術教育のなかでも、学校教育で行われている美術科教育を取り上げ、「美術科教育の教科性」、「子どもの発達と造形表現の関係」、「美術教育史」、「学習指導要領」等について学びます。また、教育全体と美術教育の関係性についても検討します。
授業内発表では、情報機器を用いパワーポイント等を使用したプレゼンテーションを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	美術教育に関する知識	日本の美術教育史、心身の発達と造形表現の関係等を学び、美術科教育についての基礎的知識を習得することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		現代の教育における諸課題を踏まえ、美術科教育が担う役割について考察することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
受講状況、授業への参加度	30 %	:	授業への積極的な参加及び、授業内容に関して内容を理解し的確に回答することができる。
授業内発表やディスカッション	20 %	:	各自が収集した美術・教育に関する記事やニュースなどから、関心ある事項を取り上げ問題を提示すると同時に、他者の発表に関して積極的に発言し議論することができる。
資料収集	20 %	:	授業内容を理解し、それに適した内容の資料を整理した授業ファイルを完成させることができる。
試験（レポート提出）	30 %	:	現代の教育における諸課題を踏まえ、美術科教育が担う役割について考察しレポートを作成することができる。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
京都市立芸術大学美術教育研究会	・ 美術資料　大阪府版	・ 秀学社	・ 2025　年

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術による人間形成』　Ｖ．ローエンフェルド著/竹内清・堀内敏・武井勝共訳　黎明書房 ISBN 978-4654040377
『美術科教育の基礎知識』編著　福田隆眞、福本謹一、茂木一司　建帛社 ISBN 978-536-60103-0
『中学校学習指導要領解説　美術編』　文部科学省 ISBN978-4-536-59013-6
『高等学校学習指導要領解説　芸術(音楽　美術　工芸　書道)編』　文部科学省　ISBN 978-4-49100147-0

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日4時間目

場所：　南館2階総合研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**美術科教育について　授業の目的、授業計画、内容紹介、授業評価について、教職履修カルテについて** 美術科教育の導入として、教育の定義を示すとともに、各学生がめざす教育観について検討する。 また、今後の授業で使用する「授業ノート」の作成について、文献や新聞等を活用した資料収集の方法等具体的な説明を行う。 本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明する。 教職履修カルテの作成について説明する。	各人が教師をめざす理由、理想とする教師像、美術科教育が担う役割等について小レポートにまとめる。	3時間
第2回	**美術科教育の教科性** 「美術の教育」と「美術教育」の違いを理解するとともに、「美術科教育」の特性について学ぶ。	授業の振り返りと個人ノートの作成・まとめ及び教育関連の資料収集	3時間
第3回	**心身の発達と造形表現の発達段階　①幼児期** 「発達とは」「発達段階とは」を把握し、人間の心身の発達と主に描画方法の発達を追い、学ぶ年齢に応じた教育のあり方を探る。「描画期」から「命名的表現」の特徴を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「幼児期の特徴について」他、教育関連の資料収集	4時間
第4回	**心身の発達と造形表現の発達段階　②児童期Ⅰ** 児童期前半の発達と描画表現の特徴「前図式表現」「図式的表現」を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まと「児童期の特徴について」他、教育関連の資料収集	4時間
第5回	**心身の発達と造形表現の発達段階　③児童期Ⅱ** 児童期後半の発達と描画表現の特徴「前写実的表現」「擬似写実的表現」を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「児童期から青年期への変化について」他、教育関連の資料収集	4時間
第6回	**心身の発達と造形表現の発達段階　④青年期** 決定の時期である青年期の発達と描画表現の特徴「写実的表現」「芸術的表現」を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「青年期の特徴について」他、教育関連の資料収集	4時間
第7回	**日本の美術科教育の歴史　①幕末から明治時代** 日本における美術教育、美術科教育の歴史を幕末から平成まで順を追って概観する。また、日本の美術教育に大きな影響を与えた海外の美術教育も含めて学ぶ。 ①では、幕末から明治期にかけて「鉛筆画時代」「毛筆画時代」「教育的図画時代」について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「幕末から明治にいたる日本の歴史的背景について」他、教育関連の資料収集	4時間
第8回	**日本の美術科教育の歴史　②大正時代から昭和初期時代** 「自由画時代」「脱自由画・構成教育時代」の美術教育を学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「バウハウスの教育について」他、教育関連の資料収集	5時間
第9回	**日本の美術科教育の歴史　③昭和10年代から20年代中期** 「戦時下図画・工作時代」「占領下生活主義・実用主義美術教育時代」について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ「第二次世界大戦前後の時代的背景、占領下における教育について」他、教育関連の資料収集	5時間
第10回	**日本の美術科教育の歴史　④昭和２０年代後期から４０年代** 「創造・認識・造形主義時代」「系統的造形主義美術教育時代」について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ、「昭和２０年代から４０年代の美術教育について」他、教育関連の資料収集	4時間
第11回	**日本の美術科教育の歴史　⑤昭和５０年代から平成にかけて**	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ、「ゆとり教育の影響について」他、教育関連の資料収集	4時間

	「感性主義美術教育時代」「ゆとり教育」について学ぶ。		
第12回	**学習指導要領の変遷　①昭和２０年代から４０年代** 小学校「図画工作」中学校・高等学校「美術」の学習指導要領の変遷を追い、その特徴や教育目標、内容について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ、教育関連の資料収集	4時間
第13回	**学習指導要領の変遷　②昭和５０年代から平成２０年代** 小学校「図画工作」中学校・高等学校「美術」の学習指導要領の変遷を追い、その特徴や教育目標、内容について学ぶ。	授業の振り返りと「授業ノート」の作成・まとめ、教育関連の資料収集	4時間
第14回	**まとめ　教育全般、美術教育について考える** これまでのノートの内容や「授業ノート」、収集した教育関連資料を踏まえて各人が問題提議を行い、課題、問題点を考える。 現代が抱える教育上の諸問題に対して、美術科教育が担う役割は何か考える。	授業内容を振り返り、現代における教育の課題、問題を踏まえて個人の考えをまとめる。「授業ノート」トのまとめとレポート作成	5時間

942

授業科目名	**美術科指導法Ⅱ**				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本科目では、中学校・高等学校美術科授業を実施するための基本的事項を学ぶことを主な目的とします。
また、中学校・高等学校芸術科(美術)の学習指導要領を精読することにより、教科の目標を理解するとともに、達成するための具体的な方法について検討します。
さらに、美術科指導法Ⅲ・Ⅳと連動し、当該授業において作成予定の授業プランについても予備的に考察し、スムーズに授業プランを作成することができるような基本的な知識を獲得することを目的としています。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	美術科の教育方法についての知識	中学校・高等学校美術科教育の変遷を踏まえ、その成果と問題点を読み解くことができる
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	中学校・高等学校美術科学習指導要領の内容を理解する	内容を知るとともに、その背景・必然性についても理解することができる
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		中学校・高等学校美術科教育の課題について検討し、改善策を提案することができる
2. 全学DP５.計画・立案力		授業プラン作成のために、計画的に取り組むことができる
3. 全学DP10.忠恕の心		社会の規範に則って行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
受講状況、授業への参加度	30 %	： 授業への積極的な参加及び、授業内容に関して内容を理解し的確に回答することができる。
プレゼンテーション	30 %	： 講義内容と授業で扱うテキストや文献資料を理解し、独自の視点で分析し表現することができる。
授業づくりのためのアイデア	20 %	： 創造的な視点で授業づくりのアイデアを考えることができる

試験（レポート提出）　：　レポート内容に妥当性があり、論理的に構成力ができる。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書については、美術科指導法１で購入したものを引き続き使用します。

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術による人間形成』　V．ローエンフェルド著/竹内清・堀内敏・武井勝共訳　黎明書房 ISBN 978-4654040377
『美術科教育の基礎知識』編著　福田隆眞、福本謹一、茂木一司　建帛社 ISBN 978-536-60103-0
『中学校学習指導要領解説　美術編』　文部科学省 ISBN978-4-536-59013-6
『高等学校学習指導要領解説　芸術(音楽　美術　工芸　書道)編』　文部科学省　ISBN 978-4-49100147-0

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日4時間目

場所：　南館2階総合研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**美術教育について、美術教師の仕事の面白さについて** 美術教育の意義や役割を美術教師という仕事の面白さという観点から考える。受講生の今までの美的経験や、現代社会、今日のアートシーンなどの幅広い視野を持って、討議を通じて考えます。	復習：美術教育の意義について自分の意見をまとめる。	4時間
第2回	**美術教育の現代―その課題と状況** 現代日本の美術教育の課題を考える。 そのために時代認識と、今日のアートの状況を把握し、美術教育の課題を討議を交えて主体的に探ります。	復習：美術教育の課題についてまとめる。	4時間
第3回	**西洋と日本の出会いが生む美術教育―鉛筆画と毛筆** 幕末から明治初期の教育制度形成期における美術と教育の姿は、グローバル社会のなかで進むべき道を模索する現代日本の課題と大きく重なります。「西洋画」がどのような形で美術教育の制度に組み込まれたかを理解することは、近代日本の文化の本質を理解することにつながります。	予習：テキスト当該箇所の精読と理解。復習：西洋画と日本の文化についてレポートを書く。	4時間
第4回	**岡倉天心の射程―グローバリズムと茶の湯** 岡倉天心が構想した「日本美術」と「美術教育」は、現代のグローバリズムのなかで美術・教育を考えるために大きな示唆を与える。西洋と東洋との差異を超える普遍的な美術・教育のビジョンについて検討します。	予習：岡倉天心とその活動について調べる。	4時間
第5回	**『新定画帖』と大正自由画運動** 明治末期に『新定画帖』（教科書）は「教育的美術」という系統的な美術教育のビジョンを示す。しかしそれは大正自由画運動という近代的で大衆的な教育運動によって、大きな意味を持ち得なかった。その歴史的経緯から、「美術教育の近代」を探ります。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：大正時代の美術教育運動の成果と問題点についてまとめる。	4時間
第6回	**大正自由画運動の展開とそれをめぐる論議** 日本における最初の近代的美術教育運動である大正自由画運動は大きな大衆的支持を得た。しかし多くの論議を呼び、賛否の論が出された。それらを通じて、現代の美術教育の基本的な理念と方法を検証します。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：大正時代の美術教育運動が現代に与える示唆についてレポートを書く。	4時間
第7回	**工作・工芸・デザイン教育の近代** 明治以降、戦前まで工作はそのほとんどを「手工」という教科名で行われた。「手工」教育の歴史を追うことで、工業国家が求めた「手」の教育の姿を理解する。それは西欧における19世紀末の美術工芸運動やバウハウスなどでのデザイン運動での教育の姿と比較することで、より明瞭となることを理解します。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：デザイン教育の黎明期に起こった運動についてまとめる。	4時間
第8回	**戦後美術教育の展開と昭和22-26年学習指導要領期の美術教育** 戦後美術教育の展開を概観した上で、戦後直後に法的拘束性を持たない「試案」として出された学習指導要領の内容を理解します。戦後リベラリズムと生活単元学習の受容のなかでの美術教育は、現在の規制緩和路線とどのように似て、どのように異なるのかを理解します。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の意味について考える。	4時間
第9回	**昭和33-44年学習指導要領と民間美術教育運動**	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間

	米国における「教育の現代化」政策の影響下で「系統化」を進めた昭和33-44年学習指導要領。その意味波動時代に実質的に美術教育を推進した民間美術教育運動の３潮流のなかで考える必要があります。近代美術教育の制度と理念をめぐってその姿を探ります。		
第10回	**昭和52年ー平成元年学習指導要領とポスト近代社会** 高度成長期の終焉と共に「ゆとり」教育へと振れはじめる学習指導要領。その背景としてのポスト近代社会とそれが要請する美術教育のビジョンを、アメリカと日本を比較しつつ考えます。他方、1970年後半以降のアートの変容も視野に入れて学びます。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間
第11回	**平成10-22年学習指導要領と新しい学力・能力観** 1990年代以降に顕在化する新自由主義的政策のなかで、美術教育はどのように対応すべきなのか。ポスト近代における教育と美術、そして文化の大きな変動を背景として「学校美術教育」の今後を考えます。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：学習指導要領の変遷についてまとめる。	4時間
第12回	**現行学習指導要領の課題と展望** 以下の諸点から現行の学習指導要領の問題点と課題について考えます。 ①共通事項、②鑑賞教育、③小中連携	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：現行学習指導要領の目的と内容についてプリントにまとめる。	4時間
第13回	**明日の美術教育を構想する（１）―美術教育の学力論と現代アート論から** 1990年代以降に現れた新しい学力観と能力観を批判的に理解し、美術教育の進むべき道を探ります。同時に美術教育のカリキュラムモデルを示しながら、その具体的な検討を行います。	予習：テキスト当該箇所を精読し理解する。復習：現代の美術教育の問題点についてまとめる。	4時間
第14回	**明日の美術教育を構想する（２）―学生からの提言（構想、発表、まとめ）** 今までの授業内容を踏まえ、「明日の美術教育を切り開く授業プラン」について小グループで構想したものを発表し、受講生全体で共有します。	プレゼンテーション準備	4時間

943

授業科目名	**美術科指導法Ⅲ**				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本授業では教育実習に向けた準備として、中学校・高等学校において美術の授業を行うために必要な知識と技術を学びます。
主に学習指導案の重要性について項目ごとに理解を深め、生徒たちが置かれた状況に即した題材開発と学習指導案の作成について詳細にシミュレーションを行います。
さらに中学校・高等学校美術科学習指導要領を精読することを通じて、学校教育で求められている教師の役割について理解し学生の自覚を促します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	学習指導案の書き方	題材設定とその理由、指導目標、評価基準について、正しく書くことができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	学習指導要領の読解力	学習指導要領に書かれてある教科の目的および内容、指導計画等を理解できる。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		授業の題材を考え、指導案を作成する力を養成する。
2. 全学DP６.行動・実践		自分の考えをわかりやすく発表し、授業を受ける者が理解しやすい指導案を書く力を養う。
3. 全学DP10.忠恕の心		社会の規範に則って行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
学習指導案の作成	40 %	： 学習指導案を2案作成し、その各項目が教育実習の現場で実情に沿ったものであるかどうかを基準に評価します。
試験（学習指導要領の理解）	40 %	： 学習指導要領の全文を熟読して理解できているかどうか、レポートによって評価します。
プレゼンテーション		： 教育実習の準備として、わかりやすい説明ができるかどうかを短いスピーチによって評価します。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書については、美術科指導法１で購入したものを引き続き使用します。

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術による人間形成』　Ｖ．ローエンフェルド著/竹内清・堀内敏・武井勝共訳　黎明書房 ISBN 978-4654040377
『美術科教育の基礎知識』編著　福田隆眞、福本謹一、茂木一司　建帛社 ISBN 978-536-60103-0
『中学校学習指導要領解説　美術編』　文部科学省 ISBN978-4-536-59013-6
『高等学校学習指導要領解説　芸術(音楽　美術　工芸　書道)編』　文部科学省　ISBN 978-4-49100147-0

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日昼休み

場所：　南館2階総合研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の目的、授業計画、内容紹介、授業評価について** 教育実習に向けての実践的準備を中心に、授業形式と授業内容の紹介をします。	予習：教職カルテの準備。復習：授業全体の計画を確認して準備。	4時間
第2回	**教職カルテの記入について** 今までの履修状況の確認をします。教職課程の単位履修漏れを防ぐとともに、これから始まる各種の実習に臨む準備をします。	復習：教職カルテの記入。	4時間
第3回	**題材開発演習①ー題材開発とはー** 美術科の授業における題材開発の重要性について学びます。	予習：授業の題材についてアイデアを考える。復習：題材開発の要点を踏まえて自分なりの題材を考える。	4時間
第4回	**題材開発演習②ー良い題材とはー** 美術科の題材に求められるものとは何かを、具体的に例を挙げながら解説します。	復習：独自に考えた題材が学校での美術の授業に適しているか、再検証。	4時間
第5回	**題材開発演習③ー題材の検証ー** 実際に題材開発を行って、グループで話し合いながらその長所や問題点を明らかにします。	復習：話し合いを踏まえて、題材の再検証を行う。	4時間
第6回	**学習指導案の作成①ー概説ー** 学習指導案についての基礎知識および書き方の通例について学習します。	予習：学習指導案の一般的な書式について学ぶ。復習：授業で学んだことを踏まえて学習指導案の原稿を作成。	4時間
第7回	**学習指導案の作成②ー題材観ー** 作成した学習指導案の中で、主に「題材観」「題材設定の理由」「題材について」の項目について検証します。	復習：授業での検証を基に、指導案の各項目を修正する。	4時間
第8回	**学習指導案の作成③ー指導目標と評価基準ー** 指導目標の立て方と、それが達成されたかどうかを判断する評価基準の違いについて検証します。	復習：指導目標と評価基準の違いを理解し、当該箇所の修正を行う。	4時間
第9回	**学習指導案の作成④ー指導計画ー** 指導計画の立て方と、本時の計画（細案）について検証します。	復習：無理なく適切に題材を指導できるかどうか、授業で学んだことを踏まえて再検証を行う。	4時間
第10回	**学習指導要領①ー目的ー** 教科の目的について、学習指導要領に書かれてある理念と照らし合わせながら解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第11回	**学習指導要領②ー内容ー** 教科の内容について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第12回	**学習指導要領③ー指導計画ー** 教科の指導計画について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間

第13回	**学習指導要領④ー共通事項ー** 新しく学習指導要領の内容に導入された共通事項について解説します。	予習：学習指導要領の当該箇所を精読する。復習：小テストを振り返って修正しながらさらに理解を深める。	4時間
第14回	**教職カルテのまとめ　授業のまとめ** 教職カルテを再度チェックし、記入漏れや内容の不備などを修正します。 本授業の内容を踏まえて、美術教育に求められている教師像を新たにイメージし、来るべき教育実習や採用試験に向けた準備を行います。	教職カルテの記入、スピーチの結果を基に、自分に足りない課題を再認識し、実習に備える。	4時間

943

授業科目名	**美術科指導法Ⅳ**				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本科目では、中学校・高等学校美術科における各領域の学習指導内容を検討し、目標の設定、指導上の留意点、評価について考察・検証し、学習指導案を作成します。また、作成した指導案に基づき受講者全員が模擬授業を行い、その後の討議により多角的に検証を行い、教育実習において授業が行える力を身に付けることを目標とします。
さらに、授業体験を通して美術科授業で配慮すべきことや、指導のポイントを学び、教科指導において必要な指導力の習得をめざします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	目標にかなった適切な授業の提案ができる。	討議を通して、授業案を作成し、適切な模擬授業の提案ができる。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		目標にかなった指導案を作成し、適切な授業の提案ができる。
2. 全学DP６.行動・実践		討議を通した意見収集から、模擬授業の問題点の検討ができ改善することができる。
3. 全学DP10.忠恕の心		社会の規範に則って行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業指導	30 %	： 自ら学ぼうとする意欲を評価する。目標にかなった指導ができたかを評価する。
模擬授業の提案、討議の様子	50 %	： 討議での意見収集から、模擬授業の問題点を検討し改善ができる。 ディスカッション時には、自分の意見を述べるだけではなく、他者を尊重し真摯に取り組む姿勢を評価する。
試験（レポート）		： 模擬授業の結果を踏まえた授業プランの作成

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教科書については、美術科指導法Ⅰで購入したものを引き続き使用します。

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術による人間形成』　V．ローエンフェルド著/竹内清・堀内敏・武井勝共訳　黎明書房 ISBN 978-4654040377
『美術科教育の基礎知識』編著　福田隆眞、福本謹一、茂木一司　建帛社 ISBN 978-536-60103-0
『中学校学習指導要領解説　美術編』　文部科学省 ISBN978-4-536-59013-6
『高等学校学習指導要領解説　芸術(音楽　美術　工芸　書道)編』　文部科学省　ISBN 978-4-49100147-0

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日4時間目

場所：　南館2階総合研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の目的及び授業計画、内容紹介　授業評価について** 美術科授業の目的と意義及び本科目の授業計画・内容について解説します。 授業評価の方法、評価基準について説明します。	授業計画と内容を確認し、授業の概要について確認する。	4時間
第2回	**美術科授業の学びの変遷について** 美術科授業の学びの変遷について説明し、現行・新学習指導要領において改訂の要点を検討します。	授業内容をまとめ、美術科授業の学びの変遷、現行・新学習指導要領改訂の要点の理解を深める。	4時間
第3回	**指導計画に基づいた授業概要の立案** 指導計画に基づいた授業概要について事例をもとに検討します。	指導計画に基づいた授業指導案を立案する。	4時間
第4回	**模擬授業計画の演習** 模擬授業案作成と実施に向けての留意点について解説します。	自身の指導テーマを反映した模擬授業が実施できるように準備する。	4時間
第5回	**模擬授業の実施と討議①　第1グループ** 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第6回	**模擬授業の実施と討議②　第2グループ** 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第7回	**討議　意見収集** 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業と討議内容の整理を行い、課題と成果を明確にする。	4時間
第8回	**模擬授業の実施と討議③　第3グループ** 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第9回	**模擬授業演習の中間評価** 模擬授業演習の中間評価を行います。	模擬授業演習の内容を検討し、課題と成果についてまとめる。	4時間
第10回	**模擬授業の実施と討議④　第4グループ** 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	各発表の記録を振り返りシートにまとめる。模擬授業シミュレーションとグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第11回	**模擬授業の実施と討議⑤　第5グループ** 模擬授業演習 各発表の記録を振り返りシートにまとめ、グループで改善点について検討し、改善の方策について検討します。	模擬授業とグループ討議内容の整理を行い、課題を克服し適切な授業が実施できるようにする。	4時間
第12回	**授業の導入を考える** 模擬授業演習において、授業導入に焦点を当てその要点について検討します。	授業導入における要点を整理しまとめる。	4時間

第13回	**授業の展開を考える** 模擬授業演習において、授業展開に焦点を当てその要点について検討します。	授業の展開の要点をまとめる	4時間
第14回	**模擬授業のまとめ** 授業演習、問題点の検討をします。 模擬授業演習を通しての課題と成果を検討し、適切な授業ができるように振り返りシートをまとめます。	授業展開における要点を整理しまとめる。模擬授業の整理、記録を行い実際の授業に生きるように考察する。	4時間

713

授業科目名	**社会科・公民科指導法Ⅰ**				
担当教員名	橋本祥夫				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教員の経験をいかし、できるだけ実践的な授業を心がけています。				

授業概要

本授業では、まず社会科・公民科教育の歴史・展開について学び、現在の社会科・公民科における教育目標および育成を目指す資質・能力を理解する。次に、学習指導要領に示された社会科・公民科の各科目の目標・内容・評価を確認し、指導におけるその取扱いについて学ぶ。さらに、社会科・公民科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させてその理解を深めて教材研究への活用方法を検討し、また発展的な学習内容について探究する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	社会科、社会科公民的分野、公民科の目標・内容編成・単元の評価規準	社会科・公民科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 社会科・公民科の学習評価の考え方を理解している。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	社会的な見方・考え方の視点	社会科・公民科の学習内容について指導上の留意点を理解している。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		背景となる学問分野との関係を理解し、社会科・公民科の教材研究に活用できる。 発展的な学習内容を探究し、社会科・公民科の学習指導への位置付けを考察できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
課題レポート[講義内容の振り返り]	50 %	:	講義内容の理解，内容の妥当性，学習意欲と論理的構成について評価します。
課題レポート[学習指導案の作成]	25 %	:	学習指導要領における学習内容と教材研究した内容の具体性、使用した適切な資料量、記述の多面性・多角性から評価します。
プレゼンテーション［教材開発］	25 %	:	教材開発した教材の適性，教材研究の深さ，授業の構成，資料の妥当性について評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説－社会科編－	・ 東洋館出版社	・ 2018 年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説―公民編―	・ 東京書籍	・ 2019 年

参考文献等

・社会認識教育学会編（2020）：『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社. ISBN:9784780606812
・原田智仁編（2017）：『平成29年版 新学習指導要領の展開 社会編』明治図書. ISBN:9784183342140

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：社会科・公民科教育の意義について** 社会科・公民科教育の特徴と意義を概観します。次に、社会科・公民科教員に必要な資質・能力を示し、本授業の到達目標を確認します。	予習：社会科/公民科学習指導要領解説の「第１章 総説 ２社会科/公民科改訂の趣旨及び要点」を読み、社会科・公民科教員に必要な資質・能力について考えておいてください。復習：シラバスを通読し、本授業で達成されるべき到達目標を確認してください。	4時間
第2回	**社会科・公民科教育の展開（１）戦前の科目編成と社会科成立の経緯について** 社会科成立の経緯を通して、社会における社会科教育の位置付け、公民としての資質の起源を確認します。	予習：webページなどの資料を活用して、戦前の社会科・公民科の科目名とその内容を調べておいてください。復習：配布資料を用いて、第２回の授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第3回	**社会科・公民科教育の展開（２）社会科・公民科の教育論・実践の歴史について** 戦後の社会科・公民科の教育論・実践の歴史を通して、社会科・公民科教育における平成29・30年学習指導要領の位置付けを確認します。	予習：国立教育政策研究所HPの「学習指導要領データベース」を参照し、これまで社会科・公民科要領の改訂が何度あったかを確認しておいてください。復習：配布資料を用いて、第３回の授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第4回	**社会科公民的分野の目標・内容・評価①** 単元の構造に焦点を当て、社会科公民的分野の内容編成を概観します。特に現代社会と経済の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。	予習：社会科学習指導要領解説で社会科公民的分野のAとBの目標及び内 容を通読しておいてください。復習：配布資料を用いて、第４回の授業 キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第5回	**社会科公民的分野の目標・内容・評価②** 単元の構造に焦点を当て、社会科公民的分野の内容編成を概観します。特に政治と国際社会の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。	予習：社会科学習指導要領解説で社会科公民的分野のCとDの目 標及び内容を通読しておいてください。復習：配布資料を用いて、第５ 回の授業キーワードの確認課題を提出してください。	4時間
第6回	**公民科公共の目標・内容・評価** 単元の構造に焦点を当て、公民科公共の内容編成を概観します。また、公民科政治の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。	予習：公民科学習指導要領解説で公共分野の目標及び内容を通読し ておいてください。復習：配布資料を用いて、第６回の授業キーワードの 確認課題を提出してください。	4時間
第7回	**公民科政治の目標・内容・評価** 単元の構造に焦点を当て、公民科政治の内容編成を概観します。また、公民科政治の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。	予習：公民科学習指導要領解説で政治分野の目標及び内容を通読し ておいてください。復習：配布資料を用いて、第７回の授業キーワード の確認課題を提出してください。	4時間
第8回	**公民科経済の目標・内容・評価** 単元の構造に焦点を当て、公民科経済の内容編成を概観します。また、公民科経済の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。	予習：公民科学習指導要領解説で経済分野の目標及び内容を通読し ておいてください。復習：配布資料を用いて、第８回の授業キーワード の確認課題を提出してください。	4時間

第9回	**公民科倫理の目標・内容・評価** 単元の構造に焦点を当て、公民科倫理の内容編成を概観します。また、公民科倫理の各項目・単元別の学習内容について、指導上の留意点および学習評価の考え方を学びます。	予習：公民科学習指導要領解説で倫理分野の目標及び内容を通読し ておいてください。復習：配布資料を用いて、第９回の授業キーワード の確認課題を提出してください。	4時間
第10回	**社会科公民的分野の教材研究** 社会科公民的分野の「どのような資質・能力を身に付けるために何をどのように活用しているか」、事例を通して、教材研究の目的と方法について学びます。	予習：学習指導要領解説を読み、社会科公民的分野の教材研究をし てください。復習：教材研究の内容についての振り返りをしてください。	4時間
第11回	**公民科公共の教材研究** 公民科公共分野の「どのような資質・能力を身に付けるために何をどのように活用しているか」、事例を通して、教材研究の目的と方法について学びます。	予習：学習指導要領解説を読み、公民科公共分野の教材研究をし てください。復習：教材研究の内容についての振り返りをしてください。	4時間
第12回	**公民科政治の教材研究** 公民科政治分野の「どのような資質・能力を身に付けるために何をどのように活用しているか」、事例を通して、教材研究の目的と方法について学びます。	予習：学習指導要領解説を読み、公民科政治分野の教材研究をし てください。復習：教材研究の内容についての振り返りをしてください。	4時間
第13回	**公民科経済の教材研究** 公民科経済分野の「どのような資質・能力を身に付けるために何をどのように活用しているか」、事例を通して、教材研究の目的と方法について学びます。	予習：学習指導要領解説を読み、公民科経済分野の教材研究をし てください。復習：教材研究の内容についての振り返りをしてください。	4時間
第14回	**公民科倫理の教材研究** 公民科倫理分野の「どのような資質・能力を身に付けるために何をどのように活用しているか」、事例を通して、教材研究の目的と方法について学びます。	予習：学習指導要領解説を読み、公民科倫理分野の教材研究をし てください。復習：教材研究の内容についての振り返りをしてください。	4時間

713

授業科目名	**社会科・公民科指導法Ⅱ**				
担当教員名	橋本祥夫				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校社会科教員としての勤務経験（全14回）				

授業概要

まず社会科・公民科における実践研究の動向を知り、社会科・公民科教育の教育目標、育成を目指す資質・能力を確認する。次に授業づくりに臨むにあたり、学習指導案の構成、生徒の実態を視野に入れた授業設計のための観点、情報機器の使用法、問いの構造化、手立てについて学ぶ。続いて、社会科公民的分野・公民科の授業づくりおよび模擬授業を実践し、その振り返りを行う。さらに教員や学生からのフィードバックをもとに模擬授業の改善案を作成する。最後に授業実施のために必要な資質・能力について考え、教育実習までに修得すべき課題を確認する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	単元観・生徒観・指導観の活用方法	子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 社会科・公民科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	社会科・公民科の学習指導案作成方法	社会科・公民科の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		社会科・公民科の模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
2. 全学DP６.行動・実践		社会科・公民科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小レポート	50 %	： 講義内容の理解，内容の妥当性，学習意欲と論理的構成について評価します。
模擬授業の指導案	10 %	： 単元の構造的理解、見方・考え方、課題追究・解決、展開の構造化などの視点か、授業を構想し，指導案を作成できているかを評価します。
模擬授業		： 模擬授業を行い，教材研究の内容，授業理論の構想，発問・指示・資料の提示などによる授業展開力などを評価します。

10　%

定期試験（レポート）　：　模擬授業を改善した指導案を教材研究をした内容の具体性，使用した適切な資料，記述の多面性・多角性から評価します。

30　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
文部科学省	・ 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説－社会科編－	・ 東洋館出版社	・ 2018　年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説―公民編―	・ 東京書籍	・ 2019　年
日本公民教育学会	・ テキストブック公民教育	・ 第一学習社	・ 2019　年

参考文献等

・澤井陽介・加藤寿朗（2017）：『見方・考え方[社会編]―「見方・考え方」を働かせる真の授業の姿とは？―』東洋館出版社. ISBN:9784491034232

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**イントロダクション：教育課程における公民教育** 現代社会における公民教育の役割，学校における公民教育の目標，日本における公民教育の歴史的展開について学び，教育課程における公民教育の位置づけを考えます。	予習：テキストの『テキストブック公民教育』第1章を一読し、社会科・公民科教員に必要な資質・能力における自身の課題について考えておいてください。復習：本授業のシラバスを通読し、社会科の教科教育法で最終的に達成されるべき到達目標を確認してください。	4時間
第2回	**中学校社会科公民的分野「A私たちと現代社会」の内容と指導事例** 学習指導要領をもとに中学校社会科公民的分野「A私たちと現代社会」の内容と指導上の留意点を学び，指導事例をもとに授業構成や指導法を考えます。	予習：中学校学習指導要領解説社会編PP126ー141を一読し、学習内容を理解しておいてください。復習：本授業の資料をもとに講義内容をまとめておいてください。	4時間
第3回	**中学校社会科公民的分野「B私たちと経済」の内容と指導事例** 学習指導要領をもとに中学校社会科公民的分野「B私たちと経済」の内容と指導上の留意点を学び，指導事例をもとに授業構成や指導法を考えます。	予習：中学校学習指導要領解説社会編PP141ー150を一読し、学習内容を理解しておいてください。復習：本授業の資料をもとに講義内容をまとめておいてください。	4時間
第4回	**中学校社会科公民的分野「C私たちと政治」の内容と指導事例** 学習指導要領をもとに中学校社会科公民的分野「C私たちと政治」の内容と指導上の留意点を学び，指導事例をもとに授業構成や指導法を考えます。	予習：中学校学習指導要領解説社会編PP150ー157を一読し、学習内容を理解しておいてください。復習：本授業の資料をもとに講義内容をまとめておいてください。	4時間
第5回	**中学校社会科公民的分野「D私たちと国際社会の諸課題」の内容と指導事例** 学習指導要領をもとに中学校社会科公民的分野「D私たちと国際社会の諸課題」の内容と指導上の留意点を学び，指導事例をもとに授業構成や指導法を考えます。	予習：中学校学習指導要領解説社会編PP157ー165を一読し、学習内容を理解しておいてください。復習：本授業の資料をもとに講義内容をまとめておいてください。	4時間
第6回	**高等学校公民科「公共」の内容と指導事例** 学習指導要領をもとに高等学校公民科「公共」の内容と指導上の留意点を学び，指導事例をもとに授業構成や指導法を考えます。	予習：高等学校学習指導要領解説公民編PP27ー84を一読し、学習内容を理解しておいてください。復習：本授業の資料をもとに講義内容をまとめておいてください。	4時間
第7回	**高等学校公民科「倫理」の内容と指導事例** 学習指導要領をもとに高等学校公民科「倫理」の内容と指導上の留意点を学び，指導事例をもとに授業構成や指導法を考えます。	予習：高等学校学習指導要領解説公民編PP85ー120を一読し、学習内容を理解しておいてください。復習：本授業の資料をもとに講義内容をまとめておいてください。	4時間
第8回	**高等学校公民科「政治・経済」の内容と指導事例**	予習：高等学校学習指導要領解説公民編PP121ー159を一読し、学習内容を理解しておいてください。復習：本授業の資料をもとに講義内容をまとめておいてください。	4時間

	学習指導要領をもとに高等学校公民科「政治・経済」の内容と指導上の留意点を学び，指導事例をもとに授業構成や指導法を考えます。		
第9回	**公民教育の学習指導案の作成と学習指導の工夫** 学習指導案の作成に必要な単元目標の立て方及びその評価規準，方法及び作成時の留意点を学びます。また，教材研究の方法，情報機器（ICT）の活用などの基本的な指導法について具体的な事例を通して学びます。	予習：テキストの『テキストブック公民教育』第6章を一読し、社会科・公民科教員に必要な資質・能力における自身の課題について考えておいてください。復習：本授業の資料をもとに講義内容をまとめておいてください。	4時間
第10回	**模擬授業と振り返り（１）現代社会・公共の模擬授業の実施と授業改善についての議論** マイクロティーチングによる現代社会及び公共の模擬授業を行います。模擬授業後、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	4時間
第11回	**模擬授業と振り返り（２）政治・経済の模擬授業の実施と授業改善についての議論** マイクロティーチングによる政治・経済の模擬授業を行います。模擬授業後、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	4時間
第12回	**模擬授業と振り返り（３）倫理の模擬授業の実施と授業改善についての議論** マイクロティーチングによる倫理の模擬授業を行います。模擬授業後、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	4時間
第13回	**模擬授業と振り返り（４）国際社会の諸課題の模擬授業の実施と授業改善についての議論** マイクロティーチングによる国際社会の諸課題の模擬授業を行います。模擬授業後、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	4時間
第14回	**授業理論と授業改善　授業理論を用いた模擬授業の改善案の議論・授業のまとめ** 社会科公民的分野・公民科の授業理論の活用方法として、模擬授業の改善案を発表し、ディスカッションを行います。 授業を振り返り、社会科・公民科の教員に必要な身に付けるべき資質・能力について考えます。	予習：他の履修者が紹介した授業理論を自身の模擬授業担当単元で活用する方法を検討しておいてください。復習：模擬授業の指導案を改善，修正し、レポートとして提出してください。教育実習に向けた自身の課題を挙げ、教育実習までに達成することをリスト化してください。	4時間

943

授業科目名	**商業科指導法Ⅰ**				
担当教員名	南谷雄司				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	経理専門学校(２年) ・兵庫県立高等学校教諭(２４年) ・教頭(８年) ・校長(２年)・医療福祉専門学校(６年) ・短期大学(５年)・大学(６年) ・コミュニテイカレッジ(１９年) ・進路指導(職業指導１３年) 商品開発(５品目) ・ビジネスアイデア指導(５年)の勤務経験 (全１５回)				

授業概要

(商業教育の動向・職業教育の動向・ビジネスアイデア・ベンチャー企業・学生起業家発表・ジュニア・高等学校内株式会社紹介) 商業教育について、知識社会、国際比較・高校現場教育の観点から詳述する。
知識社会・世界の職業教育・キャリア教育・ＡＩ・起業教育・産官学連携・リスキリング・アクティブ・ラーニング・企業分析・大学から仕事へのトランジションにおける新しい能力・新学習指導要領・高等学校の進路指導 (進学・就職) ・時事・授業方法・面接指導・教育委員会ホームページ研究
兵庫県が進める高校改革の事例を研究し、高校教育の課題と改革の基本的な方向性を明らかにする。高校教育の多様化の中で商業高校の教育課程を相対化し、その特徴を明らかにする。先進的な商業教育の事例を研究することで、これからの商業教育の目指すべき方向性と教育課程の在り方について考察する。教科商業の中の基礎的科目について模擬授業を行い、教材研究の方法、学習指導計画の立案など、教育実習ならびに教員採用試験に向けての実践力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	教科商業の目的および商業の各科目の教育内容について理解し、商業高校の社会的役割について認識を深める。	高等学校学習指導要領の総則および教科商業の解説の概要について理解する。
2. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	教科商業の基礎的な科目「ビジネス基礎」「情報処理」「簿記」「ビジネス法規」「マーケティング」について相互の関連も含めて総合的に理解する	教科商業の科目構成について構造的に理解する。
汎用的な力		
1. DP５.課題解決に向けての方策の企画・立案		擬授業の実施に際し、学習指導計画ならびに板書計画を策定する。

学外連携学修

無し

授業方法 (アクティブラーニングを促す方法について)

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

模擬授業においては、情報機器なども用いたプレゼンテーション能力の育成を行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

各回の授業において、授業テーマに関するミニッツペーパーの提出を義務づける。
提出物について評価し、個別および全体に向けてコメントする。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
試験	50 %	： 振返りテスト(講義内容・記述式・択一問題)・レポート
模擬授業実習簿	20 %	： 模擬授業の資料・実施記録を評価します。
授業への参画状況	30 %	： レポート、討論レポート・ビデオノート・質疑応答について評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
日本商業教育学会編	・「２１世紀の商業教育を創造する-商業科教育論	・ 実教出版	・ 2019　年

参考文献等

『【商業編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』（文部科学省（2019）、実教出版、ISBN:978-4407348637）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に周知します

場所： 初回授業時に周知します

備考・注意事項： 授業外での質問方法・初回授業時に周知します

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**講座ガイダンス** 基本調査、理論・制度・実態からの商業教育について概要を理解させる 商業教育の歴史 1章商業教育の意義と必要性 ○全体目標 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	予習内容：事前に資料を読み、まとめておく。自主学習2時間を要す。	2時間
第2回	**第2章我が国における商業教育の歩み** 新しいタイプの高校と改革の方向性について 新学習指導要領の概要とねらい アクティブラーニング 商業編における変更点 ①学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している 第2章我が国における商業教育の歩み 新高等学校学習指導要領の解説 ◆教育のためのICT活用　ICT活用の考え方DVD第1回	予習内容：文科省のホームページで最も印象に残ったことをもとにプレゼン資料を作成する。学習指導要領の解説(商業)について予習しておく	2時間
第3回	**第3章高等学校学習指導要領と商業教育** 教科書に頼らない授業づくりとは何かを考える。 教材開発力を養う。学科共通科目の履修要件、専門教科科目の履修要件 第3章高等学校学習指導要領と商業教育 ■学力と学習支援の心理学DVD 第3章　学習意欲の理論	予習内容：新聞・雑誌などを読み、社会問題への認識を深める	2時間
第4回	**第4章　商業科の教育課程の編成と実施** 商業の学び方ビジネスの役割を紹介し、各科目分担範囲の課題を考え、板書案と指導案の作成につなげる。発表にむけての教材づくりを行う。 ◇　教科の範囲は、事前に予告する。 第4章　商業科の教育課程の編成と実施 第5章　商業科の学習指導 ◆教育のためのICT活用　知識・理解・技能に関する活用DVD第2回	予習内容：授業のスムースな展開のための工夫や改善点をさぐる。指導案の作成。	2時間
第5回	**第7章指導計画の理念と作成・学習指導計画案の作成　（評価の観点に関する説明）** 第7章指導計画の理念と作成 7-1　指導計画書の意義と作成 7-2　指導計画4の実施・評価と改善 年間の授業計画と毎時間の指導案づくりの意義を学ぶ。 模擬授業の設計方法 （学力などの実態を踏まえた授業設計の方法含む） （情報機器及び教材の活用含む） ②個別の学習内容について指導上の留意点を理解している	予習内容：授業のスムースな展開のための工夫や改善点をさぐる。指導案の作成。	2時間
第6回	**第8章　学習評価の理念と実際・学習指導計画案の作成（評価の観点に関する説明）**	予習内容：担当科目の評価の観点と教材研究　復習内容：担当科目の指導計画案の作成	2時間

	第8章　学習評価の理念と実際 8-1　評価の目的 8-2　目標に準拠した評価と評価の観点 8-3　評価方法の工夫 ■　学力と学習支援の心理学DVD 第2章　学力の診断と評価 ③当該教科の学習評価の考え方を理解している		
第7回	**科目「ビジネス基礎」の模擬授業①** 経済教育・起業家教育の視点を活かした指導案づくりとパワーポイントの効果的活用を考える。授業の構造化から教材開発力を養う 予習内容：効果的なパワーポイントの活用を考慮した指導案の作成。 ④当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる ⑤発展的な学習内容について探求し、学習指導への位置付けを考察することができる 　高等学校教諭	予習内容：「ビジネス基礎」の学習指導計画案の作成　復習内容：模擬授業ファイルの整理、模擬授業実習簿の整理、模擬授業実習から学んだことについてのレポート作成	2時間
第8回	**科目　ビジネス法規」の模擬授業** 科目　ビジネス法規」の模擬授業 1.「ビジネス法規」の模擬授業　2.相互評価　3.授業者振り返り　4.担当教員総評 予習内容：「ビジネス法規」の学習指導計画案の作成　復習内容：模擬授業ファイルの整理 （２）当該教科の指導方法と授業設計 ①　子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。	予習内容：「ビジネス法規」の学習指導計画案の作成　復習内容：模擬授業ファイルの整理、模擬授業実習簿の整理、模擬授業実習から学んだことについてのレポート作成	2時間
第9回	**マーケティング」の模擬授業、商業科教育法Ｉのまとめと模擬授業実習簿の整理** 1.「マーケティング」の模擬授業　2.相互評価　3.授業者振り返り　4.担当教員総評 教育実習と教員採用試験に対応する実践的能力について ②学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 ■　学力と学習支援の心理学DVD 第6章　習得の授業のデザイン	予習内容：「マーケティング」の学習指導計画案の作成　復習内容：模擬授業ファイルの整理、模擬授業実習簿の整理、模擬授業実習から学んだことについてのレポート作成	2時間
第10回	**「簿記」の模擬授業** 1.「簿記」の模擬授業　2.相互評価　3.授業者振り返り　4.担当教員総評 ③　模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 ④　当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。 ◆教育のためのICT活用　デジタル教科書活用DVD第5回	予習内容：「簿記」の学習指導計画案の作成　復習内容：模擬授業ファイルの整理	2時間
第11回	**「情報処理」の模擬授業** 1.「情報処理」の模擬授業　2.相互評価　3.授業者振り返り　4.担当教員総評 ①　当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ◆教育のためのICT活用　プログラミング教育DVD第6回	予習内容：「情報処理」の学習指導計画案の作成 復習内容：模擬授業ファイルの整理	2時間
第12回	**女性労働と商業教育の課題** 商業教育に求められる課題について考える。 ①女子比率　②貧困　③非正規雇用、女性労働の実態を知り、共感力を育てる。 新時代の組織経営と働き方DVD 第12章女性の雇用管理と女性活躍推進	予習内容：貧困格差、女性労働について問題意識を育てる。	2時間
第13回	**振り返りテスト・総復習** 春季学期で学んだ商業教育の振り返りテストを実施する。 択一式・記述式・総復習	予習内容：講義資料の復讐・自主学習2時間を要す。	2時間
第14回	**「SDGs」商業教育の意義** SDGs・地域経済・産業の活性化と商業商業教育が果たすべき課題について考える。 ①大都市志向　②スモールビジネス　③ローカルビジネス、商業教育の展望をひらく。 ◆SDGsDVD	予習内容：SDGsについてホームページ・DVD視聴する。	2時間

943

授業科目名	**商業科指導法Ⅱ**				
担当教員名	南谷雄司				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	学校現場等での実務経験 大阪市立市岡商業高校教諭(昭和50年4月～昭和59年3月)大阪市立扇町商業高校教諭(昭和51年4月～平成6年3月) 大阪市教育センターの指導主事として情報教育ならびに商業教育の指導に関する業務に就く(平成6年4月～平成11年3月)				

授業概要

（商業教育の動向・職業教育の動向・ビジネスアイデア・ベンチャー企業・学生起業家発表・ジュニア・高等学校内株式会社紹介）商業教育について、知識社会、国際比較・高校現場教育の観点から詳述する。
知識社会・世界の職業教育・キャリア教育・ＡＩ・起業教育・産官学連携・リスキリング・アクティブ・ラーニング・企業分析・大学から仕事へのトランジションにおける新しい能力・新学習指導要領・高等学校の進路指導（進学・就職）・時事・授業方法・面接指導・教育委員会ホームページ研究
兵庫県が進める高校改革の事例を研究し、高校教育の課題と改革の基本的な方向性を明らかにする。高校教育の多様化の中で商業高校の教育課程を相対化し、その特徴を明らかにする。先進的な商業教育の事例を研究することで、これからの商業教育の目指すべき方向性と教育課程の在り方について考察する。
教科商業の中の基礎的科目について模擬授業を行い、教材研究の方法、学習指導計画の立案など、教育実習ならびに教員採用試験に向けての実践力を養う。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.職務遂行に必要な専門知識・技能と問題解決に向けた応用	教科商業の目的および商業の各科目の教育内容について理解し、商業高校の社会的役割について認識を深める。	高等学校学習指導要領の総則および教科商業の解説の概要について理解する。
2. DP１.現代社会におけるマネジメントとビジネスの仕組みの理解	教科商業の基本科目の指導の進め方について講義やディスカッションを行う。	教科商業の基本科目の教育内容、教育方法について理解を深める
汎用的な力		
1. DP４.課題発見のための情報の収集・分析・活用		教科商業の基本科目の指導の進め方について講義やディスカッションを行うことにより、各科目の指導上の中心的課題を理解する

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

商業教育の進め方についてグループディスカッションを行う。
情報機器を用いたプレゼンテーションも行う。

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

各回の授業において、授業テーマに関する事前レポートや事後のミニッツペーパーの提出を義務づける。
提出物について評価し、個別および全体に向けてコメントする。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
・試験・振返りテスト(授業内試験)	50 %	： 試験・振返りテスト(講義内容・記述式・択一問題)・レポート
模擬授業・実習等	20 %	： 各科目の教育の進め方や模擬授業に関する指導案・教材・レポート
授業への参画状況		： レポート、討論レポート・ビデオ視聴レポート・質疑応答について評価します。

30　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
西村修一	・商業科教育法-理論と実践-	・東京法令出版	・2021　年

参考文献等

『【商業編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』（文部科学省（2019）、実教出版、ISBN:978-4407348637）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に周知します

場所：　初回授業時に周知します

備考・注意事項：　授業外での質問方法・初回授業時に周知します

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	***ガイダンス*** 秋学期の授業計画 キャリア教育と職業教育南谷資料説明 ・教員採用試験情報・学び方・教育実習ガイダンス 第1章　商業教育と学習指導要領 j◎全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 （１）当該教科の目標及び内容一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。	予習内容：文部科学省のキャリア教育の指針について概要をまとめる。　復習内容：キャリア教育と職業教育の違いとについてまとめる。	2時間
第2回	**教員採用試験情報と対策** ・教員採用試験情報(令和６年度・７年度) ・教員採用試験対策（過去問を中心に） ・傾向分析(筆記・面接・実技)・予想問題作成・討論・質疑応答 ・各県教育委員会ホームページの見方 到達目標①：学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 ■　学力と学習支援の心理学　12章授業力と授業改善DVD	予習内容：採用試験関係の事前配布資料を読む。傾向分析・予想問題作成	2時間
第3回	**教育関係法規と戦後教育の変遷** 日本国憲法を頂点とする教育関係法規を学ぶとともに、それぞれの目的と役割を知る。 ・日本国憲法・教育基本法・学校教育法 ●　DVD 教育政策と学校の組織的対応　第2回新学習指導要領と教育課程実施状況 到達目標②　個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。	新憲法草案を事前に読了・疑問・意見をまとめる。	2時間
第4回	**商業教育論①** 教科書中心の授業では、生徒たちの心にとどかない。 心に残る授業をめざす授業とは何かを考える。 ・自主編成・教材づくり、副教材としての・ＮＩＥ・視聴覚教育・まんが・金融教育教材・DVD他 生徒たちの生きる力につながる、生活に根差した学びを考える。 NHK教育番組他・SDGs教育・地域教育・起業家教育・ICT活用・データサイエンス他 第3章　未来につながる商業教育 ●　DVD長田商業　金融教育ホームページ　高専他DVD	新聞の記事やテレビなどに常に関心を持ち視聴する	2時間
第5回	**総合的学習（「課題研究」「総合実践」）の教育の進め方（基本的視点と指導法）、商業科教育法Ⅱのまとめ** 総合的学習（「課題研究」「総合実践」）の教育の進め方についてディスカッションを行う 1.冒頭陳述　2.質疑応答　3.自由討議　4.最終陳述 総合的学習（「課題研究」「総合実践」）の教育の進め方について担当教員の講義 教育実習と教員採用試験に対応する実践的能力について ■　学力と学習支援の心理学　13章探求の学習DVD 到達目標③　当該教科の学習評価の考え方を理解している。	予習内容：自分の専門分野を中心とした経営リテラシーのモデルを策定する　復習内容：経営リテラシーの習得に向けて、各学校の役割分担について認識を深める	2時間

第6回	**商業教育推進のしくみ①（学習指導要領の改訂と教科調査官）** 学習指導要領の改訂と教科「商業」の変遷 大学の教職課程、教員採用試験、研修制度 第4章　社会とつながる商業教育 4-1　商業教育の意義 4-2　商業教育の変遷 ●　DVD 教育政策と学校の組織的対応　第3回学校組織マネージメント 到達目標④当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる 到達目標⑤発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。 ※高等学校教諭	予習内容：教科調査官の業務内容について情報を収集しておく　復習内容：教科商業の科目編成の歴史について整理しておく	2時間
第7回	**商業教育推進のしくみ②（検定事業と公益財団法人全国商業高等学校長協会）** 検定の教育的意義と課題について討論 全商ホームページの見方 各出版社のホームページの見方 ■　教育のためのICT活用　情報モラル第7回DVD （2）　当該教科の指導方法と授業設計 一般目標到達目標：子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。	予習内容：全商検定の種類について調べておく 復習内容：全商検定の本質と存在意義について整理しておく	2時間
第8回	**「観光ビジネス」の教育の進め方（基本的視点と指導法）** 「観光ビジネス」の教育の進め方についてディスカッションを行う 1.冒頭陳述　2.質疑応答　3.自由討議　4.最終陳述 「観光ビジネス」の教育の進め方について担当教員の講義 ●　DVD 観光関連 到達目標：①　学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	予習内容：学習指導要領で「観光ビジネス」の教育内容、教育方法を予習しておく　復習内容：ワークシートの整理	2時間
第9回	**「商品開発と流通」の教育の進め方（基本的視点と指導法）** 「商品開発と流通」の教育の進め方についてディスカッションを行う 1.冒頭陳述　2.質疑応答　3.自由討議　4.最終陳述 「商品開発と流通」の教育の進め方について担当教員の講義 ●　DVD 商品開発事例 到達目標：②模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 到達目標：③当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。 ※高等学校教諭	予習内容：学習指導要領で「商品開発と流通」の教育内容、教育方法を予習しておく　復習内容：ワークシートの整理	2時間
第10回	**「ビジネスコミュニケーション」の教育の進め方（基本的視点と指導法）** 「ビジネスコミュニケーション」の教育の進め方についてディスカッションを行う 1.冒頭陳述　2.質疑応答　3.自由討議　4.最終陳述 「ビジネスコミュニケーション」の教育の進め方について担当教員の講義 ●　DVD 働き方改革　視点論点　週休3日制　リスキリング　ジョブカフェ	予習内容：学習指導要領で「ビジネスコミュニケーション」の教育内容、教育方法を予習しておく(60分)　復習内容：ワークシートの整理(60分)	2時間
第11回	**「簿記」の教育の進め方（基本的視点と指導法）** 「簿記」の教育の進め方についてディスカッションを行う 1.冒頭陳述　2.質疑応答　3.自由討議　4.最終陳述 「簿記」の教育の進め方について担当教員の講義 ●　簿記のDVD	予習内容：学習指導要領で「簿記」の教育内容、教育方法を予習しておく　復習内容：ワークシートの整理	2時間
第12回	**学力と学習支援の心理学を研究し、授業に活かす生涯教育と商業教育・生涯学習・商業高専の現状と課題** ・学力の診断と評価・学習意欲の理論・科学的思考力を育てる ・習得の授業デザイン・授業力と授業改善・探求学習について説明し、討論する ・日本の商業教育・生涯学習・商業高専の現状と課題について説明し討論する。 ■　参考テキスト「学力と学習支援の心理学」DVD・第12章科学的思考力を育てる 世界の教育	予習内容：学習指導要領で「評価」の教育内容、教育方法を予習しておく　復習内容：ワークシートの整理	2時間
第13回	**振り返りテスト・総復習** 秋学期で学んだ商業教育の振り返りテストを実施する。 択一式・記述式・総復習	講義資料の復讐	2時間
第14回	**研究と発表の場の演出と教師の役割**	ビジネスプランシートの作成	2時間

高等学校生徒商業研究発表大会・ビジネスグランプリ等発表事例と商業教育の可能性について考える。 学校内株式会社事例・高校生・地域活動・調査研究、教師の役割を知る ● ビジネスプラン発表DVD		

授業科目名	**情報科指導法Ⅰ**				
担当教員名	山西輝也				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

ビックデータとAIの融合はイノベーションばかりでなく社会基盤の変革をもたらしている。このような高度な情報社会にあって、情報教育はコンピュータ技能ばかりでなく、データの科学的分析とデータ利活用ができる教育が望まれる。そこで、情報科教育の目標は、主体的に情報を活用する能力と態度を育成し、情報と社会のつながりを学び、情報科学の基礎を学修し授業の実践に必要な知識の取得である。そして学習指導案の作成を通して授業を行うのに必要な事柄を整理する。従って、受講生自身が資料を集め、考え、まとめ、発表し、議論できることを目指す。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	情報系科目の授業を実際に行う上で必要な知識および技術の習得。	情報科教育に関する学習指導要領の目標を理解する。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	情報科教育で各単元の内容と取り扱い、身に付けさせる事項が分かる。	個別の学習内容について指導上の留意点を理解する。
汎用的な力		
1. 全学DP５.計画・立案力		情報科教育に関する学習指導要領の目指すところの授業計画を立案できる。
2. 全学DP６.行動・実践		情報科教育に必要なコンピュータを中心とした情報メディアや情報通信技術の知識と活用技能、さらにデータの利活用をすることができる。
3. 全学DP７.完遂		情報科教育の学習指導案の作成方法を理解し、様々な指導方法を適切に選択できる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・eラーニング、反転授業

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題と授業外課題	20 %	： 毎回授業のあとに行う2～3題の演習問題。
指導案の評価	40 %	： 学習目標の明確さと、内容の適切性と具体性、指導方法の工夫、時間配分の妥当性、生徒の主体的な学びを促す工夫、そしてこの授業における生徒の評価方法について評価します。
定期試験	40 %	： 授業内容および授業テーマで指定された範囲を的確に理解しているか評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鹿野利春 他	・ 情報科教育法　ISBN9784407355215	・ 実教出版	・ 2022　年
文部科学省	・ 高等学校学習指導要領（平成30年7月告示）解説　情報編 ISBN9784304021633	・　開隆館出版販売	・ 2019　年

参考文献等

文部科学省『高等学校学習指導要領　平成30年3月告示』(東山書房、ISBN9784827815672、2018年)

履修上の注意・備考・メッセージ

この科目は、高等学校の教科「情報」の教員免許を取得するために必須の履修科目です。本授業を通じて、情報系科目の授業を実際に行う上で必要な知識や技術を身につけることを目標としています。また、情報科教育における学習指導要領の意図を理解し、効果的かつ適切な指導方法を習得するために、積極的な参加が求められます。授業への主体的な取り組みを期待します。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜５限目

場所：　山西研究室（S館4F）

備考・注意事項：　上記の時間外でも研究室に在室であればいつでも相談してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**情報科教育の概要** 情報科教育の歴史的背景、目的、意義を学び、情報科が教育現場で果たす役割について理解する。特に高等学校での情報科の位置づけや、社会の情報化に伴う教育の必要性について考察する。	情報教育の重要性について要点をまとめる	4時間
第２回	**学習指導要領の理解** 高等学校学習指導要領の構成を学び、情報科における目標や内容を深く理解する。各単元の具体的な内容や指導要領に基づく教育計画の重要性について考察し、指導要領を正しく解釈する力を養う。	高等学校学習指導要領の情報科部分を精読し特に重要だと思うポイントをまとめる	4時間
第３回	**知識と技能としてのコンピュータシステムの構成について** コンピュータシステムの基礎を学びます。ハードウェア（CPU、メモリ等）とソフトウェア（OS、アプリケーション）の構成と役割について講義を行い、教育現場でのシステム利用の基本を理解する。	パソコンやスマートフォンの基本構成を調べハードウェアとソフトウェアについてまとめる	4時間
第４回	**知識と技能としての実習室と普通教室について** 実習室と普通教室におけるICT環境の違いと、それぞれの特性を学ぶ。情報機器の設置・管理方法や、教育現場でのICT機器の活用方法について考える。	ICT活用が進む学校の実例とどのような機器や環境が整備されているかを調べる	4時間
第５回	**知識と技能としての情報通信技術の活用について** ICTを活用した教育を学ぶ。ネットワークの基本（LAN、Wi-Fi等）やクラウドツール、オンライン授業の活用方法を習得し、教育現場での情報通信技術の役割について考える。	教育に活用可能なクラウドツールを1つ選び基本的な機能と教育現場での活用方法をまとめる	4時間
第６回	**知識と技能としての校内設備について** 校内ネットワーク設備の構成や管理について学ぶ。ICT機器の運用や、セキュリティ対策、トラブル対応の基礎を理解し、実際の学校現場での設備管理の重要性を考える。	基本的なネットワーク構成を調べ問題点や改善点を考える	4時間
第７回	**データの収集と分析** データ収集と分析について基礎的な知識と技術を復習する。データの種類や収集手法、表計算ソフトを活用したデータ分析の基本を理解し、教育現場でのデータ活用の可能性について考察する。	身近なデータを収集し分析からデータの特徴を調べる	4時間
第８回	**データの利活用とその事例** データの利活用方法を具体例を通じて考える。教育分野でのデータ駆動型アプローチや、データ活用時の倫理的側面について議論し、実践に活かせる知識を養う。	教育現場でのデータ活用の具体例を調査し利点と課題をまとめる	4時間
第９回	**情報とメディアとしての基本的概念の整理** 情報とメディアの基本概念を学ぶ。情報の定義や、特性、メディアの種類や役割について整理し、教育現場での教材選定やメディアの効果的な活用方法を理解する。	教材として活用できるメディアの種類を調べそれぞれの特徴と教育効果を比較する	4時間
第１０回	**アナログとデジタルとしての基本的概念の整理** アナログとデジタルの違いや基本的な仕組みを学ぶ。サンプリングや量子化など、デジタル変換のプロセスを理解し、授業で必要な知識を養う。	身近なアナログとデジタルの例を挙げ両者の違いと利点・欠点を整理する	4時間
第１１回	**データリテラシーとしての基本的概念の整理**	信頼性の低いデータの例を挙げその理由とデータを評価する際の注意点について考える	4時間

	データリテラシーの基礎を学ぶ。データの信頼性やバイアスを考慮しながら、データを適切に活用する方法を習得し、教育におけるデータの重要性の理解を深める。		
第１２回	**情報科教育の学習指導形態と指導法** 情報科教育における効果的な指導形態や方法を学ぶ。アクティブラーニングやプロジェクト型学習などの具体例を基に、学習活動を設計するスキルを身に付ける。	アクティブラーニングの実例を1つ調査しその効果や課題についてまとめる	4時間
第１３回	**情報科教育の学習指導計画と指導案について** 年間指導計画や単元計画の作成方法を学ぶ。指導案の役割と構成を理解し、教育現場で実践的に活用できる計画立案のスキルを養う。	授業で取り上げた単元を基に指導計画案を作成する	4時間
第１４回	**情報科教育の学習指導案の作成について** これまで学んだ内容を基に、具体的な学習指導案を作成する。完成した指導案を発表し、質疑応答を通して改善点を見つけ、実践力を高める。	発表での質疑応答やコメントにもとづき指導案を改善する	4時間

授業科目名	**情報科指導法Ⅱ**				
担当教員名	山西輝也				
学年・コース等	3年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

情報機器の急速な技術進歩に伴いビックデータとAIが融合され社会変革がもたらされている。そのため、これからの情報科教員にはデータの収集や分析、特徴抽出、可視化などに対する指導も求められる。そこで本授業では、種々の教材について考察し、指導の方法と指導案の作成、そして模擬授業を行うことで教師として必要な資質を養成する。模擬授業では、普通教室での情報教育と、実習室でのモデルシミュレーションやデータ分析・可視化などの授業を想定する。ところで、教師は単独で授業を行う場合が多いが、実際に授業を遂行する上では、教員間の協力は必要不可欠である。よって、本授業では受講生の共同作業による演習的な内容を含む。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	情報科教育に関する学習指導要領の構成、目標、各単元の内容を詳細に理解する。さらに、情報科教育が社会や教育現場において果たす役割や意義を学び、情報科教育が他教科とどのように連携し、教育全体に影響を与えるかを把握する。	情報科教育の背景と目的を把握し、教育現場で実践的に活用できる基礎知識を確立する。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	実際の授業設計や模擬授業を通じて実践力を身に付ける。そして、生徒役の反応を的確に観察し、それに応じた授業の改善を行う技術を養う。	情報科教育の指導案を適切に作成し、それを実践に移す力を育成する。また、教育現場での問題解決能力と柔軟な対応力を身に付ける。
汎用的な力		
1. 全学DP８.意思疎通		教育活動に必要な対話力と協力関係を構築できるようにする。
2. 全学DP９.役割理解・連携行動		情報科教育の専門性を発揮しつつ、他教科や校内外の関係者と連携し、より良い教育環境を構築する力を育成する。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内課題と授業外課題	10 %	： 毎回授業のあとに行う2～3題の演習問題。
指導案の評価	20 %	： 学習目標の明確さと、内容の適切性と具体性、指導方法の工夫、時間配分の妥当性、生徒の主体的な学びを促す工夫、そしてこの授業における生徒の評価方法について評価します。
模擬授業の評価	40 %	： 授業展開の工夫や、学習者への対応、時間管理、自己評価と改善提案などを総合的に判断し授業の実践力を評価します。

定期試験　　：　授業内容および授業テーマで指定された範囲を的確に理解しているか評価します。

30　％

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
鹿野利春 他	・情報科教育法　ISBN9784407355215	・実教出版	・2022　年
文部科学省	・高等学校学習指導要領（平成30年7月告示）解説　情報編 ISBN9784304021633	・開隆館出版	・2019　年

参考文献等

文部科学省『高等学校学習指導要領　平成30年3月告示』（東山書房、ISBN9784827815672、2018年）

履修上の注意・備考・メッセージ

この授業では、情報科教育に必要な知識や指導スキルを深く学びます。講義だけでなく、模擬授業やグループ活動を通じて実践力を養います。受講生には、積極的な参加が求められ、自主的な学習や準備が重要となります。学習指導要領を熟読し、指導案作成や授業展開のスキルを身につけることを目指して欲しいです。また、他の受講生との意見交換を通じて、新たな視点を得ることも大切です。主体的に取り組むことで、高校教諭として必要な基礎力を確実に付けてもらいたいです。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　月曜５限目

場所：　山西研究室（S館4F）

備考・注意事項：　上記の時間外でも研究室に在室であればいつでも相談してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**教材研究としてハードウェアとソフトウェアに関する教材について** 教材として使用可能なハードウェア・ソフトウェアを検討しそれぞれの特性や活用方法を具体例を学ぶ	教育現場で利用可能なハードウェア・ソフトウェアを調べそれぞれの特徴と教育での活用方法を考える	4時間
第２回	**教材研究として情報通信技術の効果的な活用について** ICTを活用した教材の具体例を検討しその効果的な活用方法と教育現場での応用の可能性について考察する	ICT活用の事例を調査し具体的な活用方法と得られる効果についてまとめる	4時間
第３回	**教材研究としてモデルシミュレーションに関する教材について** モデルシミュレーションを教材として使用する意義を理解し授業での活用例を分析・検討する	モデルシミュレーションの教材例を探し内容や教育方法・学習者の効果的な活用方法を整理する	4時間
第４回	**教材研究として情報通信技術の活用からのデータ分析と可視化に関する教材について** ICTを用いてデータを収集・分析しその結果を効果的に可視化する教材の作成と活用法を学ぶ	本授業の内容をまとめ作成した教材の改善点や問題点をまとめる	4時間
第５回	**テストと評価法** 情報科におけるテストや評価法の設計と実施方法を学び公平で適切な評価を行うための基準を検討する	情報科における評価方法を調べ各評価法の利点や課題を整理し評価基準をまとめる	4時間
第６回	**指導方法の検討として情報発信とプレゼンテーションについて** 情報発信やプレゼンテーションの指導法を学び生徒が自ら表現力を高めるための手法を検討する	プレゼンテーション用の教材を作成しその構成や使用意図・学習者への期待効果をまとめる	4時間
第７回	**指導方法の検討としてグループ学習について** グループ学習のメリットや注意点を学び具体的な活動例を基に学習者同士の協働を促進する指導法を検討する	グループ学習の具体例を調査し実施方法や効果・注意点を整理し授業案の一部として提案できるようにする	4時間
第８回	**指導方法の検討として情報倫理教育について** 情報倫理教育の重要性と具体的な指導方法を学び教材やケーススタディを用いた効果的な授業設計を考える	生徒に関係した情報倫理の事例を調べ適切な指導方法をまとめる	4時間
第９回	**学習指導案作成とその際の留意点** 学習指導案作成の基本と構成を理解し情報科教育における特有の留意点や工夫について学ぶ	指導案のテンプレートを活用して特定のテーマに基づいた学習指導案を試作する	4時間
第１０回	**学習指導案作成における授業計画** 指導案作成における年間計画や単元計画の立て方を学び実際の授業に即したスケジュールを作成する	年間計画や単元計画の事例を調査し計画案を考える	4時間
第１１回	**学習指導案作成における生徒の学習評価について** 生徒の学習成果を適切に評価する方法を学び指導案の中に評価基準を組み込む具体的な手法を検討する	具体的な授業場面を想定し評価方法を考えそれが適切かを検証する	4時間

第１２回	**学習指導案作成において自己点検と授業評価について** 作成した指導案を基に自己点検や授業評価を行い授業改善のための具体的なフィードバックの方法を考える	学習指導案を点検し改良すべき点や授業改善案をまとめる	4時間
第１３回	**模擬授業（1回目）の実施と評価** 指導案を基に模擬授業を実施し受講者同士で評価・フィードバックを行い授業の改善点を明確にする	模擬授業の結果を基に生徒役からのフィードバックを活用し指導案や授業構成を自省する	4時間
第１４回	**模擬授業（2回目）の実施と評価そして教育実習に向けて** 模擬授業の成果を反映した改善案を基に2回目を実施し教育実習に向けた準備と心構えを確認する	教育実習を見据え指導案と授業計画を確認し教育実習での目標と準備すべき内容をまとめる	4時間

713

授業科目名	**道徳の理論及び指導法**				
担当教員名	荊木聡				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	オンデマンドによるビデオ視聴とワークシート・指導案等の作成				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教諭（２５年），中学校指導教諭（２年）　（全１４回）				

授業概要

道徳教育の基盤である道徳性の意味や善悪，正しさについての理解をもとに，児童生徒に道徳教育を行うことの意義を理解させるとともに，「特別の教科道徳（道徳科）」の特質や指導方法について論じる。その際，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育との違いや関連について考察しながら，道徳科の授業づくり(教材研究，発問，児童生徒の意見の受け止め方，板書等）についても取り上げる。その中で，道徳教育の理論や方法，道徳性の発達について，実際の児童生徒の姿を具体的にイメージしながら，教師として求められる姿勢や態度，指導力について論じる。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる	道徳教育に関する専門的な知識の習得	道徳とは何か，道徳的に生きることにどのような意味があるのか，道徳を教えるとはどういうことかについて理解することができる。
汎用的な力		
1. DP1.人の立場に立って考え行動する高い倫理観と共感性を備え、看護学の科学的知識と実践能力を持ち、自律して看護を実践し看護学の発展に寄与することができる		物事を根本から考え直すことで，課題に気づくことができる。
2. DP2.人間を全人的に理解し、科学的思考に基づき多様な健康レベルにある人々の健康問題を解決する判断力を有し、看護職を目指す者として使命感を持ち役割を果たすことができる		目標を明確にし，それを達成するための計画を立案することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

必要に応じて模擬授業を準備してもらうことがあります。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
ワークシート・レポート	40 %	： 授業内容を正しく理解できているかという観点から評価する。
授業づくり（指導案作成等）	30 %	： それまでの授業内容の理解に基づいた効果的な指導案等を作成できているかどうかを評価する。
授業内小テスト「筆記」	30 %	： 授業内容で扱った基礎的な知識・技能及びその活用力を評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・必要に応じて電子媒体で配付するとともに、必要な文献，資料等は授業の中でも紹介します。
・なお、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」及び「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」については、文部科学省ＨＰ上から閲覧することはできるものの、できれば購入しておくことが望ましい。

履修上の注意・備考・メッセージ

本授業の配信曜日は、水曜日です。原則として、その日のうちに視聴しワークシートを提出するよう心掛けて下さい。
なお、本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 具体的な質問については、動画配信した水曜日に、メールで受け付けます。
ibaraki@sonoda-u.ac.jp
なお、質問への回答は、その週末までに行うことを基本とします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**道徳のイメージと本質** 特別の教科道徳(道徳科）では、どのような授業をするべきか？『小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編』には、「道徳科の授業では、特定の価値観を児童に押し付けたり、主体性をもたずに言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない。」と書かれている。また、学校における道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行うものであることを前提に，それとは別に「特別の教科道徳（以下「道徳科」）」が設置されていることから、「道徳科」の特質が何であるかを十分に理解した上で授業を行う必要があることを理解する。そして、自分の小学校のときの道徳の授業を思い出し、道徳授業に対する新しいイメージを創造していく。	講義の内容を配布資料やノートを用いて復習し，「道徳科」の授業の特質について理解を深める。	4時間
第2回	**「道徳科」授業の目標と趣旨** 道徳教育の意義・役割とともに、その要である道徳科の目標とその趣旨について理解していく。そして、道徳性と道徳的価値の自覚という基礎的概念についても整理していく。 特に、道徳教育の二重構造について知るとともに、機能としての道徳教育が、いかにして機能的に躍動するのかを考えるとともに、領域としての道徳科を意味のある時間として創造するための糸口や手掛かりを考察していく。その際、「道徳科」の学習内容は、他の教科の内容とは異なり、学校等で習わなければ知らないようなものではなく、生活の中での経験を通して日々学んでいるものだという点に留意する。子供が既に知っていることをねらいにするような「道徳科」の授業を行うならば、それは子供にとってつまらないばかりか、学びのない授業と言わなければならないからである。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，「道徳科」の授業のねらいについての考えを深める。	4時間
第3回	**指導理論と「考え議論する」道徳が目指すもの** 一昔前の学校現場でよく見かけた道徳授業の典型例を踏まえつつ、児童生徒にとって学びのある時間とするために、「考え議論する」という視点を積極的に取り込んだ授業構想について考える。その際、過去の授業の良い点を財産とし、悪い点は改善しなければならないが、その判断規準となるものが、道徳科の目標に示された授業展開のプロセスであり、過去の反省に立った「考え議論する」という視点である。そこでまずは、新しい道徳科授業の具体像を、これらの規準に基づいて描き出すための第一歩として、道徳授業に関する指導理論と「考え議論する」道徳の方向性について掘り下げて理解していく。	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，「道徳科」の授業の課題について考えを深める。	4時間
第4回	**内容項目の研究と教材分析の視点** 道徳の内容項目を小学校低学年から中学校まで系統的・俯瞰的に捉え、授業構想を進める上で、それがどのような役割を果たすのかを考察していく。 具体的には、内容項目に表現されているキーワード・キーセンテンスに着目して、発達の段階に応じてどのように広がり、どのように深まっているのかを明確にして理解し、その知見・視座に基づいて、具体的な教材を分析するための手法を学ぶ。さらに、発問構成を考える上でも、主題のねらいを確定する上でも、内容項目の理解・道徳的価値の把握は欠かせないことを実感していく。必要に応じて、指導要領解説のみならず、古今東西の書物で論じられた倫理学的視点も提供する。	『小学校学習指導要領』やノートを用いて復習し，考え，議論する「道徳科」の学習について理解を深める。	4時間
第5回	**発問づくりと授業の実際**	講義の内容を配付資料やノートを用いて復習し，価値観が多様化しても道徳の問題には共有できる答えがあることついて理解を深める。	4時間

	道徳が教科化された背景と方向性を確認し、「わたしたちの道徳」の補訂ページに特徴を整理した上で、理念だけでなく授業レベルでどのような変化を目指しているのかを理解していく。 「価値認識」「自己認識」「自己展望」に関する発問について、教材「とつぜんのあめふり」を例にして提示し、発問づくりのノウハウの一端を捉えていく。 また、小学校の定番教材を用いて、実際に発問をつくる経験をし、よりよい発問に練り鍛えていくための視点や糸口について考察していく。 さらに、中学校では学び直しの教材として取り上げられる「はしの上のおおかみ」の指導案や班書例にも接し、より具体的な授業の実際をイメージできるようにする。		
第6回	**「価値認識」「自己認識」「自己展望」の意義と発問づくり①〔基本編〕** 具体的な教材で授業することを想定して、「価値認識」「自己認識」「自己展望」の発問づくりに取り組み、それぞれの発問に対する子供たちの反応予想を行う。その反応予想を観察することで、各発問の意義や方向性に一貫性があるのかどうかを吟味していく。また、よりよい多様な発問例に触れながら、豊かな問いを突きつける「発問の型」の基本的な例を示したり、より深く考える道徳授業とするための初歩的な留意点についても学んでいく。 さらに、前回授業で触れた「はしの上のおおかみ」の実践例を板書とともに示しながら、「考え、議論する」ためのポイントを整理していく。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の教材理解とねらいについて考えを深める。	4時間
第7回	**「価値認識」「自己認識」「自己展望」の意義と発問づくり②〔習熟編〕** 教材「月明かりで見送った夜汽車」を例にして、これまで一般的に行われてきた授業の指導案を批判的に考察する。その上で、「考え、議論する」道徳を目指すための「価値認識」「自己認識」「自己展望」の視座から発問構成を行った指導案との比較対照から、より今日求められている道徳授業の姿を明瞭に持ち、道徳的な議論を成立させるための基本的な条件について整理していく。 また、多面的・多角的に考えるための発問や動詞に着目して、具体的な発問づくりに習熟していく。そして、「考え、議論する」道徳科の授業を創造する上で、自分がもっとも大切にしたいことを、ＮＨＫの道徳番組「ココロ部！」の視聴等を基にして、精選していく。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業づくりについて考えを深めるとともに，授業構想を立てる。	4時間
第8回	**「価値認識」「自己認識」「自己展望」の意義と発問づくり〔応用編〕** 発問づくりの応用編ということで、その前提として数多くの発問と板書に触れて、各自の授業づくり・発問づくりの経験値を高められるようにする。その上で、「絵はがきと切手」や「おばあちゃんの指定席」等の定番教材を用いて、より実践に耐え得る発問構成となるよう吟味を重ねていく。 その際、発問相互の連繋について意識したり、表現が異なるだけで子供の反応は類似してこないかを考えたりして、発問それぞれの意義とねらいを授業の全体構想の中で捉え、修正する経験を積めるようにする。また、「おばあちゃんの指定席」については、学生が考えた指導案例も提示しながら、より深く丁寧に、自己の作成した発問群に対する自己評価が下せるようにする。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習しながら，「道徳科」の授業づくりを考える。	4時間
第9回	**評価の観点と視点** 学習指導要領解説に示されている「評価の視点」としての７項目については、授業づくりのポイントと表裏を成していることを押さえつつ、道徳科における評価の基本姿勢を確かめていく。また、評価の対象が何なのかについても知見を深められるようにする。同時に、評価の「観点」と「視点」という言葉の用い方の違いと場面についても整理していく。 さらに、具体的な授業に対する子供たちの反応や意見・感想に対して、通知票や指導要録に示さなければならない「評価文」に関する留意点についても確かめながら、具体的な評価文をどのような手順でどのように作成するのかについて、「ねらい」と「発問」と「評価」の三位を一体化することに配慮しながら、その技術を身に付けていく。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業についての考えを深めるとともに，学習指導案や授業について理解を深める。	4時間
第10回	**主題構成と指導案・板書** 主題とは、子供たちにとって切実性の高い主たる問題ということであるが、主題構成の意義や手法について具体的に学ぶことがなければ、道徳授業は成り立たない。そこで、主題構成に不可欠な「道徳的価値の研究」「児童生徒の心の実態」「教材分析」「発問とねらい」等の要素について問い直すとともに、具体的な道徳科学習指導案の小見出しの一般的なものを紹介し、記述していく際の押さえどころを解説する。 また、板書に関しては、忘れてはならない３つの機能について理解を深めるとともに、「時系列的な板書」と「構造的な板書」それぞれの長短について考察し、時処位に応じて適切な板書形式を選択したり、ハイブリッド式の板書計画を立てたりするなど、柔軟に活用できるような基本的姿勢を育んでいく。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業について考えを一層深める。	4時間
第11回	**小学校の授業実践を視聴して①〔小学校に学ぶ〕**	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業力について考えを広げ，深める。	4時間

	小学校の定番教材を分析考察し、具体的な発問構成を考えた上で、授業実践を視聴して、その授業の発問や展開の流れについての良否を整理していく。また、授業者による振り返りも参照しながら、改めて発問づくりに取り組み、子供の反応予想もイメージしながら授業構想を練り直していく。 その際、今日、「自分ならどうするか」という発問の重要性が脚光を浴びているが、改めて、どのような場面で用いることができるのか、また、用いることを避けたい場合には、代替の発問として、どのような視点から発問を再構築すればよいのかについても、実践を通じて理解を深めていく。		
第12回	**授業実践を視聴して②〔中学校に学ぶ〕** 中学校教材を分析考察し、具体的な発問構成を考えた上で、授業実践を視聴して、その授業の発問や展開の流れについての良否を整理していく。また、小中学校の道徳科授業の異同についても心を留めながら、改めて発問づくりに取り組み、子供の反応予想もイメージしながら授業構想を練り直していく。 その際、「価値認識」「自己認識」「自己展望」の視座がどのように活かされているのか、また、我が事として教材場面を捉え直すための「しかけ」はどうあるべきか等についても整理しつつ、児童生徒にとって魅力を感じる道徳授業の輪郭を明確にして、実践に基づく汎用性のある理解を進めていく。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業について考えを一層深める。	4時間
第13回	**指導案と発問の吟味** 基本発問だけでなく、補助発問や追究発問についても考慮し、また、児童生徒の反応予想も行いながら、具体的な教材を用いて、指導案を完成させる。その際、主題観、生徒観、教材観、指導観が的を射た適切なものとなっているかについても、主体的に判断できるようにポイントを確認していく。その際、これまでの授業内容を総動員して、質が高いだけでなく、個性的な指導案となるよう努めるものとする。 なお、扱う教材については、幾つか準備するが、いずれにしても文部省・文部科学省が過去に作成した教材、もしくは、多くの教科書に掲載されている定番教材から選択・決定できるようにする。これは、学校教育の場に立ったとき、必ずどこかで授業することになるという配慮からのものである。	講義の内容を『小学校学習指導要』や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の授業ついて考えを深める。	4時間
第14回	**これまでの振り返りとまとめ** 前回の授業で作成した指導案のいくつか代表的なものを取り上げ、工夫点とその効果について解説を加える。また、これまでの授業で参照した指導案や授業実践、あるいは板書写真なども加味にして、よい道徳授業に必要な要素・条件を自分なりに整理していく。 授業の中盤では、第１回授業で考えた道徳授業に対するイメージにどのような変化が生じたのかについて、自己省察していくとともに、どのような影響を子供たちに与え得る道徳授業を目指したいのかについて、具体像を描く。 最後は、小テストを行って、道徳教育・道徳授業を行うための基礎的知識や授業構想力・授業実践力に関わる技能と思考力・授業力を確かめる。	講義の内容を教科書や配付資料，ノートを用いて復習し，「道徳科」の評価について考えを深める。	4時間

943

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法				
担当教員名	稲井雅大				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・公立小学校及び国立大学附属小学校に２８年間勤務し、教諭・指導教諭・主幹教諭を務める。 ・教育研究会特別活動部、部長校に勤務し研究主任を務める。（全７回）				

授業概要

総合的な学習の時間が制定された歴史的な背景や教育課程上の位置づけなどについて理解するとともに、学習指導要領における総合的な学習の時間の教育目標・内容について確認する。また、各教科等との関係性や違いを理解し、実社会・実生活の中から課題を見つけ一解決のための情報の収集一整理・分析一まとめ・表現するという探究の学びを実現するための指導法を身に付ける。総合的な学習の時間で学んだ基礎的な事項や優れた教育実践をもとにしながら、自ら指導計画や単元計画なども作成したりする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	総合的な学習の時間の指導法について理解を深める。	総合的な学習の時間の特質を理解し、探究的な学習の方法について理解する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		総合的な学習の特質である探究学習のスタートである課題の設定ができる。
2. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		総合的な学習の時間の課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の学修の見通しを立てることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内評価	20 %	： 授業内での役割遂行や課題提出などで評価します。
振り返りシート	30 %	： 授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価します。
期末レポート	50 %	： 授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する期末レポートを実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・文部科学省（平成29）中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　東山書房
・文部科学省（平成22）　今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開　教育出版

履修上の注意・備考・メッセージ

授業時間外の学習については、テキストをもとに予習を行ったり、配布プリントで復習を行ったりすることが４時間程度求められる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 初回授業時に連絡

場所： 研究室中央館5階

備考・注意事項： 詳細については、初回の授業時に説明する。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**「総合的な学習の時間」のねらい、意義、教育課程の位置づけ** 「総合的な学習の時間」が制定された背景、ねらいや教育的意義、及び教育課程の位置づけについて理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」が実施された背景や意義などについて概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、「総合的な学習の時間」のできた背景や意義などについて理解を深める。	4時間
第2回	**「総合的な学習の時間」の目標・内容と全体計画作成の考え方** 「総合的な学習の時間」の目標・内容、育てたい資質・能力について理解するとともに、全体計画との関連について学ぶ。	テキストをもとに、「総合的な学習の時間」の目標や育てたい資質・能力、全体計画などについて概観しておく。また、配布プリントをもとに「総合的な学習の時間」の全体計画についての理解を深める。	4時間
第3回	**「総合的な学習の時間」における「探究的な学習」の在り方** 「総合的な学習の時間」の特質とも言える「探究的な学びのプロセス」や「探究課題」について理解を深める。	テキストをもとに「探究的な学習のプロセス」や「探究課題」について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、「探究的な学習のプロセス」に「探究課題」ついて理解を深める。	4時間
第4回	**「総合的な学習の時間」と各教科等との関連** 「総合的な学習の時間」と各教科等で育成を目指す資質・能力との関連について理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」と他の教科等との関連について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、他の教科等で育成する資質・能力との関連について理解を深める。	4時間
第5回	**「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の留意点** 「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成の基本的な考え方と留意事項についての理解を深める。	「総合的な学習の時間」の年間指導計画について概観しておく。また、配布プリントをもとに年間指導計画作成の基本的な考え方や留意点について理解を深める。	4時間
第6回	**「総合的な学習の時間」の単元計画についての考え方** 「総合的な学習の時間」の単元計画作成の基本的な考え方と授業づくりの留意事項についての理解を深める。	テキストをもとに、「総合的な学習の時間」の単元計画について概観しておく。また、配布プリントをもとに単元計画作成の基本的な考え方や留意事項について理解を深める。	4時間
第7回	**「総合的な学習の時間」の評価の基本的な考え方とその方法** 「総合的な学習の時間」についての評価の基本的な考え方と方法について理解を深める。	テキストをもとに「総合的な学習の時間」の評価について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、評価の基本的な考え方や方法について理解を深める。	4時間

713

授業科目名	**特別活動の指導法**				
担当教員名	稲井雅大				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	・公立小学校及び国立大学附属小学校に２８年間勤務し、教諭・指導教諭・主幹教諭を務める。 ・教育研究会特別活動部、部長校に勤務し研究主任を務める。（全７回）				

授業概要

特別活動の教育的な位置づけや役割などについて、学習指導要領の「特別活動の目標・内容」を通して理解できるようにするとともに、特別活動を推進していく上で必要な知識・技能を習得していくことを目的とする。また、特別活動の内容である「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」についての目標や内容などについても理解できるようにする。とりわけ「学級活動」は、「いじめ・不登校などの予防的役割」を果たすことが期待されており、具体的な指導法や実習等も取り上げながら講義を進めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	特別活動の指導法についての理解を深める。	特別活動の特質を理解し、児童・生徒の自発的・自治的活動を促す指導の在り方を追究する。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		子どもたちを取り巻く急激な社会の変化の中で、今日的な教育課題について理解を深めることができる。
2. DP５.多角的な視点からの他者への理解		特別活動の重要な視点である「社会参画」「人間関係形成」「自己実現」など、自分なりに自覚し、行動しようとすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	20 %	： 授業内での役割遂行や課題提出、自主的発表など授業参加状況などを評価します。
授業振り返りシート	30 %	： 授業内容が的確にまとめられ理解できているか、自分の考えや思いが述べられているかを評価します。
定期レポート	50 %	： 授業で行った範囲の中から、授業内容を的確に把握できているかを確認する期末レポートを実施する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

・小学校学習指導要領（平成29年3月告示）　文部科学省
・小学校学習指導要領解説　特別活動編（平成29年3月告示）　文部科学省

履修上の注意・備考・メッセージ

テキストをもとに次回学修する内容について予習を行うこと。また、授業後は配布プリントをもとに授業の内容を復習し、理解を確かなものにしておくこと。授業時間外の学修については４時間程度求められている。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　初回授業時に連絡

場所：　研究室中央館5階

備考・注意事項：　詳細については、初回の授業時に説明する。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**特別活動の目標・内容と特質・教育的意義** 特別活動の目標・内容について理解することを通して、特別活動の特質や教育的意義についての理解を深める。また、他の教科等との関連について学び、特別活動が各教科等の学びを実践につなげたり、全教育活動の基盤となる役割を担ったりしていることを学ぶ。	これまでの特別活動の経験や体験について、具体的な活動について振り返り整理しておく。また、配布プリントをもとに丁寧に本時の復習を行う。	4時間
第2回	**学級活動の目標と内容** 学級活動の目標・内容から学級や学校生活やをよりよくするために、また、自己の課題を解決するために、課題を見つけ、改善するために話し合い、合意形成や意思決定をしたりして、自主的実践的に取り組む活動であることを具体的な事例を取り上げ理解を深める。	学級活動の目標・内容からどのようなことがわかるのか考えを整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を丁寧に行うこと。	4時間
第3回	**学級活動(1)(2)(3)における指導方法** 学級活動(1)(2)(3)において、各々の学習過程をもとに指導法の違いや特質があることを理解するとともに、合意形成や意思決定に至るまでの事前の活動や本時の活動、評価などの具体的なプロセスについて理解を深める。	テキストをもとに学級活動(1)(2)(3)の違いについて調べ、整理しておく。また、配布プリントをもとに本時の復習を丁寧に行う。	4時間
第4回	**学級活動(2)における指導案の作成** とりわけ中学校で取り組まれることが多い学級活動(2)を取り上げ、学級活動(2)の学習過程に沿って、取りあげた題材を基にテキストを参考にしながら、学習指導案を作成する。	テキストをもとに学級活動((2)に相応しい題材を概観し整理しておく。	4時間
第5回	**学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」** キャリア教育は特別活動を核として進めていくことが学習指導要領に示されている。このことから、学級活動(3)の「一人一人のキャリア形成と自己実現」における学習内容や取り上げる題材について、具体的に示したり、キャリア教育でどのような資質・能力を身につえｋていくのか理解を深める。	学級活動(3)を進めるにあたり、どのような学習過程を踏まえ、キャリア教育ではどのような資質・能力を身に付けていくのかをテキストを基に理解を深めておく。	4時間
第6回	**生徒会活動の目標と内容** 生徒会活動の目標・内容、評価などについての理解を深めることを通して、各々の教育的意義や特質、指導方法について学修する。	テキストをもとに、生徒会活動の目標・内容を概観しておくとともに、小学校での委員会の活動について想起しておく。また、配布プリントをもとに復習し、児童会活動並びにクラブ活動についての理解を深める。	4時間
第7回	**学校行事の目標と内容** 学校行事の目標・内容、評価などについて理解を深めるとともに、地域との連携をふまえた取り組みなど学校と地域との関係について学修を深める。	テキストをもとに、学校行事の目標・内容と指導法について概観しておく。また、配布プリントをもとに復習し、学校行事についての理解を深める。	4時間

712

授業科目名	**教育方法論・ICT活用**				
担当教員名	星川佳加				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

この科目では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能について身に付けることを目標とします。とくに、多様な児童生徒を理解する視点をもち、ICTを活用しながら、教育実践を構想/計画・展開・評価する方法や技術等について学びます。
講義を中心に行いますが、Google Classroom等を活用したコメント交流や、協同学習等のアクティブラーニングもとりいれます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育方法（ICT活用を含む）に関する基礎的な知識・考え方	教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得することができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育方法や教育実践を省察・研究する力	教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえ、教育実践を構想/計画したり、評価したりすることができる。
汎用的な力		
1. DP５.多角的な視点からの他者への理解		多様な他者・子どもを理解する視点をもって、教育実践や教育方法を構想・評価することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のミニテスト・ミニレポート	50 %	： 教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得できているか評価します。
マイクロティーチング及び振り返り	30 %	： 教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえながら、主体的かつ協同的に、教育実践を構想/計画したり、評価したりすることができているか評価します。
定期試験（レポート）	20 %	： 定期試験（レポート）について、ルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著『新しい時代の教育の方法〔改訂版〕』（有斐閣、2019年、ISBN978-4-641-22125-3）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： オフィスアワー・研究室は初回授業時にお伝えします。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション ：教育方法とは** この科目のテーマである教育方法について、その学問的な精神について学びます。また、現代日本の学校教育において求められる教育方法の概要と、学校教育におけるICTの位置づけ等について解説を受けます。	予習シートの作成：令和の日本型学校教育	4時間
第2回	**現代の学校教育において求められる教育方法** これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要とされる教育の方法として、ICT活用を含め現代の学校教育で求められる事項について解説を受けます。	予習シートの作成：学習指導要領、情報活用能力の育成	4時間
第3回	**教育の目標と評価** 教育の目標と評価に関して、特に「情報活用能力の育成」、学習評価の基礎的な考え方、実践/実践者に対する評価という考え方について学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	予習シートの作成：GIGAスクール構想、1人1台端末	4時間
第4回	**授業の内容と教材・教具** 授業の内容と教材・教具に関して、特にICTの活用を含め授業の内容に適した教材や教具を選択する視点を学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	予習シートの作成：学校施設、Schools for the Future	4時間
第5回	**指導の技術と環境の構成** 指導の技術と環境の構成に関して、特に話法や板書等の技術、ICT活用、教室やICT機器を含む環境の構成等について考える視点を学ぶとともに、指導案の書き方を考えます。	学習指導案の作成	4時間
第6回	**西洋における教育方法の理論と実践：19世紀頃まで** 西洋における教育方法とその根底にある教育思想の歴史について、特に17世紀～19世紀に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践を理解します。 第6～10回の授業で順次マイクロティーチングを実践します。	復習シートの作成：西洋における教育方法の理論と実践（19世紀頃まで）	4時間
第7回	**西洋における教育方法の理論と実践：19世紀末頃以降** 西洋における教育方法とその根底にある教育思想の歴史について、特に19世紀末頃以降に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：西洋における教育方法の理論と実践（19世紀末頃以降）	4時間
第8回	**日本における教育方法の理論と実践：明治期** 日本における教育方法と教育改革の歴史について、特に明治期に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：日本における教育方法の理論と実践（明治期）	4時間
第9回	**日本における教育方法の理論と実践：大正期以降** 日本における教育方法と教育改革の歴史について、特に大正期以降に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解します。	復習シートの作成：日本における教育方法の理論と実践（大正期以降）	4時間
第10回	**戦後日本における教育方法の論点と課題** 戦後日本における教育方法の論点と課題について、特に論争史に焦点をあてて知り、教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解し、教育実践を捉える視野を広げます。 第6～10回の授業で順次実践したマイクロティーチングについて振り返ります。	マイクロティーチング振り返りシートの作成	4時間
第11回	**子どもの学習と学力** 子どもの学習と学力について、特に子どもたちの興味・関心を高め、子どもたちとともに課題や学習内容を捉えるという視点から学びます。効果的なICT活用について考えます。	学習指導案の改善	4時間
第12回	**教師と子どもと学習形態** 教師と子ども、子どもと子どもの関係に注目して授業を構想し展開する視点、子どもが集団で学ぶ意味と必要性について学びます。効果的なICT活用について考えます。	学習指導案の改善	4時間
第13回	**教科外教育活動の構想**	学習指導案の完成	4時間

	教科教育と教科外教育の相違点と連関について学ぶとともに、教科外教育活動を構想するために必要な視点や方法について学びます。		
第14回	**まとめ：教育実践を担う教師** 現代日本の学校教育においてどのような教育実践が求められているかについて学びます。最後に、これまでの学びを振り返り、教育実践を創造することについて考えます。	これまでの学びの振り返り	4時間

712

授業科目名	**教育方法論・ICT活用【DS・看護】**				
担当教員名	大部慎之佑				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	小学校教諭として公立小学校で５年間勤務。その間，学級担任として学級運営や各教科の指導を行った。また，校務分掌においては，ICT教育の担当を受け持ち，GIGAスクールをはじめとするICT業務に携わった。				

授業概要

本科目では，教育実践を構想/計画するとともに，それらの実践を展開し，評価するための方法や技術等について学ぶ。本科目で扱う内容は主に現代の学校教育で求められる教育方法の在り方や教育方法に関する歴史，基礎的な理論等についてである。加えて，各回のテーマと関連させながらGIGAスクール構想をはじめとした昨今の学校教育におけるICT教育の位置づけやその活用方法についても学んでいく。

なお，本科目はGoogleClassroomを活用しながら、オンデマンド形式で授業を実施する。よって，受講生には自ら必要な資料を探究したり，それらの資料を読み込んだりするといった，学ぶに対する主体的な姿勢を求める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP１.教育に関する幅広い教養・技能	教育方法に関する基礎的な知識・考え方	教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得することができる。
2. DP２.教育実践の省察・研究	教育方法や教育実践を省察・研究する力	教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえ、教育実践を計画することができる。
汎用的な力		
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣		主体的に教育方法・ICT活用に関する学習を進めることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

各回の課題はGoogleClassroomにて配布する。

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

コメントはGoogleClassroomにて発信する。

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回のミニテスト・ミニレポート	70 %	： 教育方法に関する基礎的な知識や考え方を修得できているかどうかを評価する。
定期試験（レポート）	30 %	： 教育方法に関する基礎的な知識・考え方をふまえながら学習指導案を作成できているかどうかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著『新しい時代の教育の方法〔改訂版〕』（有斐閣、2019年、ISBN978-4-641-22125-3）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため，平均して毎回4時間程度の授業外学修が求められます。「授業外学修課題」に取り組むことに加え，その回の授業の内容を丁寧に復習し，次回の授業に向けての予習をしてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

備考・注意事項： 質問等はGoogleClassroomにて受け付けます。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション ：教育方法とは何か** 本科目のテーマである「教育方法」について，その学問的精神がどのようなものであるかを学ぶとともに，教育方法学について学ぶことの現代的意義を考える。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第2回	**現代学校教育において求められる教育方法** これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために，現代の学校教育で必要とされる教育の方法がどのようなものであるかを学ぶ。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第3回	**西洋における教育思想と教育方法の歴史** 西洋における教育方法とその根底にある教育思想の歴史について学ぶとともに，教育方法に関する基礎的な理論と実践にふれる。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第4回	**日本における教育改革と教育方法の歴史** 日本における教育方法と教育改革の歴史について学ぶとともに，教育方法に関する基礎的な理論と実践についての知見を身に付ける。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第5回	**現代教育方法学の論点と課題** 戦後日本における教育方法の論点と課題について学ぶことで，教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解を深めるとともに，教育実践を捉えるためのより広い視野を獲得する。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第6回	**子どもは何を学ぶか―教育目標・内容論** 学校教育における教育目標や教育内容について学ぶとともに，GIGAスクール構想をはじめとする昨今のICT教育の動向についてふれる。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第7回	**学習とは何か―学習論** 子どもの「興味・関心」という視点から子どもの学習がどのようなものであるかを学ぶ。また，学校教育における目標や内容とも関連させながら子どもにとってのより良い学びについて考える。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第8回	**学力をどう高めるか―学力論** 学力論に関するいくつかの議論を取り上げつつ，子どもの学力をどのようにして高めるかという問題について考える。また，学びの向上という視点から現代の学校教育で目指されるべきICT活用のあり方についても検討する。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第9回	**授業をつくるということ** 「授業のつくり方」について，その基本となる考え方や手順，視点等について学ぶ。また，今日強調されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために，タブレット端末をはじめとしたICT機器をどのように活用すべきかを検討する。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第10回	**教師に求められる授業力とは** 「これからの教師にはどのような力が求められるのか」をテーマに，教師に必要とされる資質・能力について学ぶ。また，その中核となる教師の授業実践において，ICTの活用がどのように教師の実践や子どもの学びに貢献し得るかを考える。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第11回	**教育方法における評価** 学習の成果を測るための評価には，その目的に応じた様々な方法があるということを学ぶ。また，実際の授業において「いつ」「何を」「どのように」評価するのかということを授業実践の事例をもとに考える。	学習指導案の改善	4時間
第12回	**深い学びを導くための教材研究** 子どもたちに深い学びをもたらす授業実践に不可欠となる教科書をはじめとした教材研究の手法について学ぶ。	指定された資料を読み内容を要約する	4時間
第13回	**教育実践を構想する** これまでの講義で扱った内容をふまえ，学習指導案の作成に取り組むとともに，指導案作成を通して，子どもたちへの言葉がけや板書の工夫といった具体的な学習指導のあり方について学ぶ。	学習指導案の作成	4時間
第14回	**まとめ：どのような教師を目指すのか** 現代日本の学校教育においてどのような教育実践が求められているかについて学び，どのような教師を目指すべきかについて考える。	これまでの学びを振り返る	4時間

712

授業科目名	生徒・進路指導論				
担当教員名	中野澄				
学年・コース等	2年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校教員、教育委員会指導主事、文部科学省生徒指導調査官、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官として、生徒指導及び進路指導に関する実務や研究に携わる。（全14回）				

授業概要

学校教育における生徒指導及び進路指導等の位置づけ及び教育機関における体制について理解し、これらを実施するために必要な諸理論や手法について、体罰や懲戒の問題を含めて学ぶ。また、「いじめ」や「不登校」といった具体的な問題行動および進路指導の事例を取り上げ、問題の理解を深める。そして、理論と事例研究の統合を図ることにより、生徒指導および進路指導に関する現代的な課題を探究し、実際の教育活動への示唆を得る。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	望ましい生徒指導・進路指導のあり方へ の理解を深め，教育現場での実践に活か すことができるようにする。	生徒指導・進路指導に関する知識・技 能を身につけている。教育現場におけ る生徒指導・教育相談の役割と重要 性を理解している。

汎用的な力	
1. DP４.主体的・継続的に学び続ける習慣	教職に携わることを目指す者として必要な常識や生徒・保護者への姿勢等を生徒指導面から確認し、より充実させるよう努める。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・ディベート、討論

・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業の参加度	35 %	： 授業への積極的参加，グループワークへの貢献度，授業態度などを総合的に評価する。
授業内課題	40 %	： ノート及びワークシートの内容を点検し、授業内課題の達成率について評価する。
期末レポート	25 %	： 生徒指導・進路指導のそれぞれについてレポートを課す。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

文部科学省　『生徒指導提要』　令和４年１2月改訂

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　研究室または教室（授業時間の前後）

備考・注意事項：　特に前回授業を欠席した場合は、翌週の授業までに必ず研究室に資料等を取りに来て、指示を受けること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 生徒指導及び進路指導について、基礎的な知識及び考え方について知る。また、シラバスを活用して、授業の進め方や準備物、評価の観点等について理解する。	学修内容について整理する。この講義に期待すること及び自分の問題意識を整理して おく。	4時間
第2回	**教育課程における生徒指導の位置づけ及び生徒指導体制・教育相談体制の違いについて** 学校教育において、生徒指導が何を目的としてどのように位置づけられるべきかを理解する。その上で、生徒指導体制と教育相談体制の具体例を示し、目的や構成員の違いについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、何が生徒指導とし て行われていたか考えてみる。	4時間
第3回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（1）各教科・道徳教育における生徒指導のあり方と進め方** 各教科・道徳教育における生徒指導のあり方について探求することで、日常的な教育活動の中で生徒指導の機能がどのようにいかされるべきかを理解する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめるとともに、様々な教育活動における生徒指導のあり方について文献にあたる。	4時間
第4回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（2）総合的な学習の時間における生徒指導のあり方と進め方** 総合的な学習の時間において、「居場所づくり」と「絆づくり」の違いを理解し、児童生徒の自主性をいかす生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめる。	4時間
第5回	**生徒指導の理論と手法　集団指導（3）特別活動における生徒指導のあり方と進め方** 「集団によって個が育つ」ことを深く理解するとともに、設定された場面における自尊感情の育成を意識した生徒指導のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめる。	4時間
第6回	**生徒指導の理論と手法　個別指導（1）家庭・地域・関係機関と連携した対応の重要性と進め方** いじめ認知件数、不登校児童生徒数、暴力行為発生件数の全国的な状況を理解するとともに、具体的な事案も取り上げながら、児童生徒の最善の利益のための家庭・地域・関係機関との連携の必要性を理解し、具体的な進め方を考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、教育実習校に関連する関係機関の場所を調べる。	4時間
第7回	**生徒指導の理論と手法　個別指導（2）教員と専門職との日常的な連携の目的や進め方** 今後、さらに進むであろうスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の配置拡充を意識し、教員と専門職との連携の重要性について、具体的な事案も取り上げながら理解する。アwせて、専門職の特性をいかした教育相談体制のあり方について考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、専門職の資格や役割についてさらに調べる。	4時間
第8回	**実践事例研究（1）いじめへの対応、「学校いじめ防止基本方針」の目的・内容の理解** 実際の「学校いじめ防止基本方針」を収集しその内容を比較しながら、いじめの対応に関する基本的な考え方、専門職の活用、関係機関との連携のあり方について理解し、その内容をまとめる。グループワークを行う。	「学校いじめ防止基本方針」の事例を収集し、学修内容を踏まえて、内容の読み込む。	4時間
第9回	**実践事例研究（2）不登校への対応、集団指導と個別支援の方法原理** 国の動向も踏まえつつ、不登校対策を3つの視点に分けて、個別指導と集団指導の重なりの具体策や個別指導に必要な視点について理解する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、様々な自治体や学校におけるチーム学校の構成員を調べる。	4時間
第10回	**実践事例研究（3）暴力行為及び今日的な課題への対応、生徒指導に関する法令内容の理解** 生徒指導に関する法令を知り、それが学校現場ではどのように反映されるのかについて、暴力行為や児童虐待、ネット上のトラブル等の対応事例をもとに考究する。グループワークを行う。	学修内容を踏まえ、体罰に関する報道等を調べまとめる。	4時間
第11回	**キャリア教育・進路指導の理論と進め方** 学校現場におけるキャリア教育・進路指導が学校全体の中でどのように位 置づけられ、どのような体制で取り組まれているのか、そのシステムについて知ると同時に、どのような児童生徒観をもとに何を目指して実践されているかについて理解する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、何がキャリア教育・進路指導として行われていたか考えてみる。	4時間

第12回	**職業に関する体験活動を核としたカリキュラム・マネジメントの意義** 学校が地域と連携して取り組む体験活動の事例をもとに、事前事後学習の方法について考究する。グループワークを行う。	学修内容について整理する。学校のHP等から職業体験に関する事例を収集する。	4時間
第13回	**ガイダンス機能を生かしたキャリア教育、キャリアカウンセリングの考え方** 進路指導・キャリア教育の方法として、全生徒を対象としたガイダンスとしての指導のあり方を理解する。進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導の在り方を理解する。	学修内容について整理する。グループワー クでの論点をまとめるとともに、不登校児童生徒に関するチーム学校について事例を調べる。	4時間
第14回	**キャリアカウンセリングの方法、まとめ　―理論と実践の統合を図るために** 進路指導・キャリア教育の方法として、個別の課題に向き合うカウンセリングとしての指導を具体的に考える。これまでの学修内容を振り返り，望ましい生徒指導及び進路指導のあり方について考究する。	学修内容について整理する。自身の中学 校での体験を振り返り、進路相談の中でどんなカウンセリングが行われていたか考えてみる。生徒指導・進路指導について学んだ内容を整理しレ ポートする。定期試験にむけて１４回の授 業全体から学んだことを復習する。	4時間

713

授業科目名	学校教育相談				
担当教員名	米田薫				
学年・コース等	3年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	中学校教諭として勤務の後、教育委員会にて教育相談・適応指導教室担当として従事。その後、臨床心理士・公認心理士として公立中学校スクールカウンセラーを経験。【全14回】				

授業概要

教育相談は、教育上の心理的な諸問題に対する援助活動で、学校で行われるものと教育相談機関で行われるものがある。本科目は、前者における子どもや保護者の指導・援助に資する理論とスキルの習得を目指す。その意義や担うべき役割を問題解決的・予防的・開発的機能を踏まえ、個と集団の両面から授業を展開する。予防的・開発的教育相談の集団体験や個別面接のロールプレイを通じて教育相談の基礎を体得する。あわせて、いじめや不登校、学級経営、発達に課題のある子どもへの支援、家庭や他機関との連携についても理解を深める。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP２.教育実践の省察・研究	教育相談に関する基本的な事項の理解	教育相談に対する関心を深め、基本的な事項を説明することができる。
汎用的な力		
1. DP３.社会への貢献態度		学校教育相談に関して、今日的な課題を見出すことができる。
2. DP７.忠恕の心		授業内の演習で内省した事柄を適切に自己開示することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業内テスト	10 %	： 授業内に実施する基礎的事項に関するテストにより評価する。
課題ワークシート	60 %	： 授業内に課した課題に関するレポートにより評価する。
ロールプレイ、課題プレゼンテーション等	20 %	： 授業内に実施するロールプレイやプレゼンテーションにより評価する。
定期試験（レポート）	10 %	： 授業で示された課題についてレポートし、指定された期間内に提出する。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
米田薫	・『改訂版　厳選　教員が使える５つのカウンセリング』	・ほんの森出版	・2019　年

参考文献等

・日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編・中級編」　図書文化　2013年 ISBN-10 : 4810036294

他は授業中に紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日2時間目

場所：　中央館５階127

備考・注意事項：　質問はＥメール（yoneda@osaka-seikei.ac.jp)でも対応する。件名に「学校教育相談：質問：○○（送信者の氏名）」とした上で、本文に送信者の所属学部、学籍番号、名前を明記すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育相談とは** 教育相談の定義、領域と内容　歴史と展開、学校教育相談の特質と学校内の体制について学びます。	シラバスを読む。教育相談の定義、領域と内容を説明できるようにする。	4時間
第2回	**教育相談の基礎** 学校教育相談に用いられる諸理論とアセスメント、基本となる接し方について学びます。	前時の復習と本時の予習。基本となる接し方のレポート作成	4時間
第3回	**集団対象の教育相談（1）ー自他理解をテーマとする構成的グループエンカウンターー** 構成的グループエンカウンターの自己理解を深めるエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。授業体験レポートの作成	4時間
第4回	**集団対象の教育相談（2）ー自己受容を深める構成的グループエンカウンターー** 構成的グループエンカウンターの自己受容をテーマとするエクササイズを体験します。	前時の復習と本時の予習。自己分析レポートの作成	4時間
第5回	**集団対象の教育相談（3）ーソーシャルスキル教育ー** 人間関係形成・問題解決・感情コントロールをテーマとするソーシャルスキル教育について学び、その発展形であるSELについても触れます。	前時の復習と本時の予習。習得したスキルの活用レポート作成	4時間
第6回	**個別面接の基本（1）ー非言語的側面ー** 個別面接の際のポイントとなる非言語的側面について学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第7回	**個別面接の基本（2）ー面接を始める際のポイントー** 個別面接を始める際のポイントについて学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第8回	**個別面接の基本（3）ー面接を進め、終結に至るー** 個人面接を進め、終結に至るプロセスを学びます。	前時の復習と本時の予習。グループで担当した課題の学修	4時間
第9回	**個別面接の基本（4）ー模擬面接ー** 個別面接の基本として学んだ事項を模擬面接を通じてスキルを磨きます。	前時の復習と本時の予習。摸擬面接レポート作成	4時間
第10回	**発達と学習についての理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第11回	**いじめや不登校、反社会的行動についての理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第12回	**障害のある子どもの理解と対応** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第13回	**キャリア教育とキャリアカウンセリング** テーマに関するグループ研究発表と対話で学びを深めます。	前時の復習と本時の予習。本時の課題レポート作成	4時間
第14回	**教育相談の現状と展望**	前時の復習と本時の予習。最終レポートの作成	4時間

チーム援助、外部機関との連携、保護者支援、危機対応について学びます。		

713

授業科目名	**教育実習事前事後（中等）**				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	3・4年	開講期間	後期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。
事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	教育実習生として遵守すべき義務	教育実習生として遵守すべき義務等について理解している
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。
2. 全学DP10.忠恕の心		教育実習生の責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業における課題	40 %	： 教育実習生として遵守すべき義務等に関して、自身の考えが的確に示されているか等から評価します。
課題レポート（事前指導）	30 %	： 教育実習生の責任を的確に記述できるか、教育実習参加に対する意欲的な表現があるか、またそれらの具体性等から評価します。
課題レポート（事後指導）		： 教育実習の知識と経験を基にあげた自身に必要な知識や技能等の的確さ、具体性等から評価します。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配布します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は1単位の科目であるため、平均すると毎回1時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜４限

場所：　西館４階研究室

備考・注意事項：　必要に応じて個別の実習学生ごとに実習開始前の事前指導、実習終了後の事後指導を個別に行います。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**事前指導：教育実習の目的・意義、教育実習に向けた課題の確認** 教育実習への参加手続き状況、教育実習の目的・意義を確認します。 履修カルテを用いて自身の学びを確認し、教育実習までに克服する課題を確認します。	予習：「教育実習Ⅰ・Ⅱ」と「教育実習事前事後指導」のシラバスを一読しておいてください。履修カルテの記載事項を確認しておいてください。復習：自身の課題克服に関する計画を作成してください。	1時間
第2回	**事前指導：教育実習参加の心得・服務上の注意点、学校組織・運営** 教育実習生として遵守すべき事項、個人情報の取り扱い、実習参加の留意事項、社会人としての基本（挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など）が身についているかを確認します。 学校組織・運営の特徴、校務分掌に関する学びを振り返り、学校組織の一員として行動するために必要な資質能力を確認します。	予習：学校組織・運営、校務分掌に関する教職課程の授業の資料を読み返しておいてください。復習：学校組織マネジメントとはどうあるべきか学校組織の現状と課題を踏まえて論じてください。	1時間
第3回	**事前指導：実習先の求める教師像** 教員採用に係る情報から教育実習先の自治体の求める教師像を確認し、自身の課題を見出します。	予習：教育実習先の教員採用に係る情報を確認しておいてください。　復習：求める教師像に対する自身の課題を克服する計画を作成してください。	1時間
第4回	**事前指導：教育実習参加体験の聴講** 学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等に関する先輩の教育実習の体験を聞いて、教育実習の具体的な内容を確認します。	予習：教育実習参加での学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等について、不明な点・疑問点を整理しておいてください。復習：教育実習参加体験の聴講して、学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等について自身の実習に活かせる点を整理しておいてください。	1時間
第5回	**事前指導：教師のICT活用指導力、授業理論の活用** 電子黒板やデジタル教科書の活用など、授業におけるICTの活用方法を確認します。 授業理論の紹介・実践を通じて、様々な学習活動と適切なてだての共有を行います。	予習：選択した授業理論について調べておいてください。　復習：ICT活用の注意点をまとめて　ください。授業で紹介された授業理論の他、模擬授業担当単元で活用できる授業理論がないか調べてください。	1時間
第6回	**事前指導：学習指導案の作成方法** 事例指導案を用いて、指導案作成の意義、必要とされる項目、および授業における活用方法について確認します。	予習：配布した事例指導案集を一読しておいてください。　復習：配布した事例指導案集の項目とwebページ等で見つけることができる指導案の項目を比較し、項目の有無を確認してください。	1時間
第7回	**事前指導：模擬授業の実施と授業改善についての議論１（グループA）** 生徒役が指導案を確認した後、グループAの教師役による模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	1時間

第8回	**事前指導：模擬授業の実施と授業改善についての議論２（グループB）** 生徒役が指導案を確認した後、グループBの教師役による模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	1時間
第9回	**事前指導：模擬授業の実施と授業改善についての議論３（グループC）** 生徒役が指導案を確認した後、グループCの教師役による模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	1時間
第10回	**事前指導：模擬授業の実施と授業改善についての議論４（グループD）** 生徒役が指導案を確認した後、グループDの教師役による模擬授業を行います。模擬授業後、授業評価用ルーブリックを用いて、学生同士で授業の良い点や改善点を指摘し合い、議論します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教材研究の後、模擬授業の指導案作成と模擬授業の準備をしてください。復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	1時間
第11回	**事前指導：教育実習に対する責任・参加意欲・自己評価** 教育実習生としての使命感や責任感、教育的愛情等について確認します。	予習：教師の心得に関する教職課程の授業の資料を読み返しておいてください。 復習：課題レポート（事前指導）を作成・提出してください。	1時間
第12回	**事前指導：教育実習直前課題の確認** 履修カルテを用いて教育実習直前の自身の学びを確認し、教育実習における課題と目標を作成します。 実習記録について、事前の記入事項を記入方法、実習中に記入する各項目の書き方を確認します。	予習：履修カルテの記入事項を確認しておいてください。復習：実習記録の事前記入項目を記入してください。	1時間
第13回	**事後指導：教育実習参加体験の発表** 学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等に関する教育実習参加体験を発表し、実習体験を共有することで、自己の体験を相対化してその特徴を検討します。	予習：学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等に関する体験を整理しておいてください。復習：学級経営、生徒指導、教育課程、学習指導等に関する自身と他の実習生の実習の違いを検討してください。	1時間
第14回	**事後指導：教育実習を終えての省察、授業のまとめ** 教育実習における事後の手続きについて確認します。履修カルテを用いて、これまでの教職課程の授業で学んだことが教育実習でどのように生かされたかを確認します。また、教育実習を通して習得した資質能力を確認し、またどのような課題が残ったかを整理します。	予習：履修カルテの各科目の「教育実習を終えて」欄を記入し、教育実習を通して習得した資質能力を確認してください。復習：教育実習における諸手続き等の遂行状況を確認しておいてください。課題レポート（事後指導）を作成・提出してください。	1時間

714

授業科目名	教育実習事前事後指導（中等）				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	1
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務(全14回)				

授業概要

本科目では、教育実習に向けて必要な基本事項と心構え、学校現場の組織・服務上の注意等についての学習を行います。
また、実習時の指導案を作成することを通して実習に対する目的を明確にするようにします。
さらに、受講者全員の教育実習での美術科授業シミュレーションを実施し、美術科授業運営についてグループで討議します。その後全体で討議を行い、授業内容の改善を図ります。
教育実習終了後は、受講者全員が実習時に行った授業を紹介し、全体で振り返りを行い成果と課題、反省点について討議し総まとめを行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	教育実習において必要な知識、技能の習得	目標に対して授業を適切に計画し、実行できる。

汎用的な力

1. 全学DP６.行動・実践	教育実習において授業を指導教員の指導のもとにおこなう。自ら学ぼうとする意欲と態度
2. 全学DP６.行動・実践	実習授業および研究授業を指導教員の指導のもとにおこない、自ら学ぼうとする意欲と態度を持つことができる。
3. 全学DP10.忠恕の心	社会の規範に則って行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
講義への参加の度合い	30 %	： 教育実習への意欲と心構えを持ち、適切な美術科指導案を作成できているか。討議時には、自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見に耳を傾けることができているかを評価する。
授業内での模擬授業	50 %	： 学習目標に則した授業を計画し、実行できているか、自ら学ぼうとする意欲と態度を持っているかを評価する。
試験（レポート）		： 教育実習の成果と課題をレポートとしてまとめる。

20　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。

『美術による人間形成』　Ｖ．ローエンフェルド著/竹内清・堀内敏・武井勝共訳　黎明書房 ISBN 978-4654040377
『美術科教育の基礎知識』編著　福田隆眞、福本謹一、茂木一司　建帛社 ISBN 978-536-60103-0
『中学校学習指導要領解説　美術編』　文部科学省 ISBN978-4-536-59013-6
『高等学校学習指導要領解説　芸術(音楽　美術　工芸　書道)編』　文部科学省　ISBN 978-4-49100147-0

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は１単位の科目であるため、平均すると毎回２時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日4時間目

場所：　南館2階総合研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育実習の目標・意義および心得　授業の目的、授業計画、内容紹介　授業評価について** 教育実習の目標・意義を理解する。教育実習に向けて具体的な教材開発のための準備を行います。 本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明します。	教育実習の目標・意義について理解し、具体的な教材開発の準備を行う。	2時間
第2回	**教育実習事前指導　教育実習の目標・心構え** 教育実習の目標が理解でき、適切に心構えができるように解説します。 また、学生の主体的意見交換により、理解を深めます。	教育実習の目標と心構えを整理し、理解が深まるようにする。	2時間
第3回	**教員組織・運営・服務上の注意点** 学校現場の組織・運営・服務上の注意点を理解できるようにします。	学校現場の組織・運営・教員の服務についてまとめる。	2時間
第4回	**授業の事例研究** 教育実習に向けて具体的な授業準備をします。	授業計画、指導案を作成する。	2時間
第5回	**教育実習授業と討議　(1グループA)** 教育実習に向けての具体的な授業準備をします。	授業計画、指導案を作成する。	2時間
第6回	**教育実習授業と討議　（２グループB)** 模擬授業案の討議を行う。	模擬授業案の再検討をおこなう。	2時間
第7回	**教育実習授業と討議　（３グループC)** 教育実習に向けて具体的な授業の準備を行います。	授業目標に合った授業指導案を作成する。	2時間
第8回	**教育実習授業と討議　（４グループD)** 教育実習に向けての問題点の検討を行います。	授業の課題点を整理する。	2時間
第9回	**教育実習実践演習　（１グループA)** 模擬研究授業　授業の展望と課題を相互に検討します。	模擬授業の振り返りを整理する。	2時間
第10回	**教育実習実践演習　（２グループB)** 模擬研究授業　授業の展望と課題を相互に検討します。	模擬授業の振り返り、自分ができていないことは何かをまとめる。	2時間
第11回	**教育実習実践演習　（３グループC)** 模擬研究授業　授業の展望と課題を相互に検討します。	適切な授業計画を作成する。	2時間
第12回	**教育実習実践演習　（４グループD)** 模擬研究授業　授業の展望と課題を相互に検討します。	適切な授業計画を作成する。	2時間
第13回	**事後指導・個別の実習についての検討** 実習の反省・成果について検討し整理します。	実習日誌の整理と実習校に礼状を書く。	2時間
第14回	**事後指導・教育実習のまとめ** 教育実習のまとめ、改善課題、気づいたことを整理します。	自分自身の教育実習を振り返りまとめる。	2時間

714

授業科目名	教育実習Ⅰ（中等）/教育実習Ⅱ（中等）				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本科目では、実習校による教育実習プログラムが中心となります。教育実習を有意義なものとするために、事前学習として既習事項の再確認を行います。実習直前に実践的な学習を行うことによって、教育実習の心得を習得し、教育実習において必要な事項の準備を行います。また、実習校における教育実習においては、観察・授業実践・生徒との対応・特別活動への参加などにより、既習内容を実体験し、教師にとって必要な態度、知識・技術等資質の向上が図れるようにします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	教育実習のための能力の育成	教育実習の意義、目的を理解し主体的に実習に取り組むことができる。
汎用的な力		
1. 全学DP６.行動・実践		実習の持つ意味を理解し実践できる。
2. 全学DP７.完遂		３週間の教育実習を責任もって完遂することができる。
3. 全学DP９.役割理解・連携行動		実習生の役割を理解し、学校運営に関わることができる。
4. 全学DP10.忠恕の心		社会の規範に則って行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合	評価の基準
教育実習先および指導教員からの評価 100 %	： 教育実習に対して、適切な実習の実践と準備ができたか。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

教育実習は出席厳守。
教育実習Ⅰ・Ⅱは学外実習科目のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。
本科目は２単位の科目であるため、全体で９０時間の学修が求められる。
実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日4時間目

場所：　南館2階総合研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**教育実践への観察・参加・実習** 教育実習先の教師の指導のもと、次の観察・参加・実習を中心に大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、教育実習校の生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。 ・生徒や学習環境等に対して適切な観察を行います。 ・学校実務に対する補助的な役割を体験します。 ・各教科や教科外活動の指導の実践を試みます。	実習校の指導教員の指示に従って真摯に取り組む。	90時間

713

授業科目名	**教育実習Ⅰ（中等）（商業）**				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	4年	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習は、大学での理論研究を学校で総合的に実証研究すると同時に、生徒等への接し方や学校での教諭や職員の教育的実践や専門性を具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、高等学校生徒の成長発達の様子や教員としての職務の一端に触れ教職についての理解を深める。また、教科の指導、学習指導案の作成、教員の指導の様子の観察などを通して教育実践力を持てるようにする。さらに、生徒理解をはじめとする生徒への接し方や学級経営の基本について、実際に体験し教職に対する理解を確かなものとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	学校経営方針、特色ある教育活動、学校の組織体制など	実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮、情報機器を活用など	学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 指導教員等の実施する授業を視点をもって観察し、事実に即して記録することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
3. 全学DP８.意思疎通		教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わることができる。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動		学級担任・教科指導教員等の補助的な役割を担うことができる。 学級担任・教科指導教員等の学級や学習集団づくりにおける役割と職務内容を実地に即して理解している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題

に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
教育実習先からの成績報告票	80 %	: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導について評価される
教育実習記録簿	20 %	: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導に対する的確さ等から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実習中に提示される参考文献等を活用し、教材研究を進めてください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れるてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜４限

場所： 西館４階研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
教育実践への観察・参加・実習 教育実習先の教師の指導のもと、次の観察・参加・実習を中心に大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、教育実習校の生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。 ・生徒や学習環境等に対して適切な観察を行います。 ・学校実務に対する補助的な役割を体験します。 ・各教科や教科外活動の指導の実践を試みます。		90時間
		時間

944

授業科目名	**教育実習Ⅰ（中等）（社会・公民）**				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	4年生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習は、大学での理論研究を学校で総合的に実証研究すると同時に、生徒等への接し方や学校での教諭や職員の教育的実践や専門性を具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、中学校・高等学校生徒の成長発達の様子や教員としての職務の一端に触れ教職についての理解を深める。また、教科の指導、学習指導案の作成、教員の指導の様子の観察などを通して教育実践力を持てるようにする。さらに、生徒理解をはじめとする生徒への接し方や学級経営の基本について、実際に体験し教職に対する理解を確かなものとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	学校経営方針、特色ある教育活動、学校の組織体制など	実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮、情報機器を活用など	学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 指導教員等の実施する授業を視点をもって観察し、事実に即して記録することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
3. 全学DP８.意思疎通		教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わることができる。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動		学級担任・教科指導教員等の補助的な役割を担うことができる。 学級担任・教科指導教員等の学級や学習集団づくりにおける役割と職務内容を実地に即して理解している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
教育実習先からの成績報告票	80 %	: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導について評価される
教育実習記録簿	20 %	: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導に対する的確さ等から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実習中に提示される参考文献等を活用し、教材研究を進めてください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れるてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜４限

場所： 西館４階研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
教育実践への観察・参加・実習 教育実習先の教師の指導のもと、次の観察・参加・実習を中心に大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、教育実習校の生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。 ・生徒や学習環境等に対して適切な観察を行います。 ・学校実務に対する補助的な役割を体験します。 ・各教科や教科外活動の指導の実践を試みます。		90時間
		時間

433

授業科目名	**教育実習Ⅱ（中等）（社会）**				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

教育実習は、大学での理論研究を学校で総合的に実証研究すると同時に、生徒等への接し方や学校での教諭や職員の教育的実践や専門性を具体的かつ直接的に学ぶことを目的とする。具体的には、中学校・高等学校生徒の成長発達の様子や教員としての職務の一端に触れ教職についての理解を深める。また、教科の指導、学習指導案の作成、教員の指導の様子の観察などを通して教育実践力を持てるようにする。さらに、生徒理解をはじめとする生徒への接し方や学級経営の基本について、実際に体験し教職に対する理解を確かなものとする。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	学校経営方針、特色ある教育活動、学校の組織体制など	実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮、情報機器を活用など	学習指導に必要な基礎的技術（話法・板書・学習形態・授業展開・環境構成・安全への配慮など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 指導教員等の実施する授業を視点をもって観察し、事実に即して記録することができる。
2. 全学DP５.計画・立案力		学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。
3. 全学DP８.意思疎通		教科指導以外の様々な場面で適切に生徒と関わることができる。
4. 全学DP９.役割理解・連携行動		学級担任・教科指導教員等の補助的な役割を担うことができる。 学級担任・教科指導教員等の学級や学習集団づくりにおける役割と職務内容を実地に即して理解している。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・eラーニング、反転授業
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)
・見学、フィールドワーク
・課題解決学習(PBL)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
教育実習先からの成績報告票	80 %	: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導について評価される
教育実習記録簿	20 %	: 生徒理解、授業研究、学校経営、教育活動への参加、学習指導案の作成、学習指導の基礎的技術、学級経営、生徒指導に対する的確さ等から評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

実習中に提示される参考文献等を活用し、教材研究を進めてください。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められます。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れるてください。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜４限

場所： 西館４階研究室

備考・注意事項： オフィスアワー以外でも質問等があれば随時応じます。

授業計画

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
教育実践への観察・参加・実習 教育実習先の教師の指導のもと、次の観察・参加・実習を中心に大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を実践し、教育実習校の生徒の実態とこれを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けます。 ・生徒や学習環境等に対して適切な観察を行います。 ・学校実務に対する補助的な役割を体験します。 ・各教科や教科外活動の指導の実践を試みます。		90時間
		時間

714

授業科目名	**教職実践演習（中学校、高等学校）**				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（全14回）				

授業概要

本科目では、教育実習の体験をもとに、教師として教育現場で勤務することに対する課題とその解決方法を検討します。
具体的には、教師としての実践的な応用力を身につけるために、教育実習の振り返りを項目ごとに分け理解を深めたり、検証したりします。また、各回異なる題材設定による授業研究を通して、成果と課題を学生どうしで討論します。
さらに、外部講師を招聘した講義も設定しており、学校現場の実態や、教師に求められる資質について、実践的な知識を習得する機会となります。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	教職についての意識	教育実習を通して学んだこと、および自分の課題を客観的に認識できている。
2. 全学DP３.専門的知識・技能を実践で応用する力	教育実習の振り返り	教育実習で行った授業や各種取り組みについてわかりやすくプレゼンテーションができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		自分が教師として足りないものは何か、自己分析できる。
2. 全学DP６.行動・実践		教育実習の授業を再現する際、適切な準備ができている。
3. 全学DP８.意思疎通		教育実習の振り返りにおいて、他の学生の例についても興味をもって意見を述べ合うことができる。
4. 全学DP10.忠恕の心		社会の規範に則って行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
プレゼンテーション	40 %	： 教育実習の振り返りにおいて、模擬授業や授業研究などのプレゼンテーションが適切にできる。
ディスカッション		： 教育実習の振り返りにおいて、他の学生のプレゼンテーションに興味を持ち、積極的に討議に参加し意見を述べることができる。

	20 %	
教職カルテ	:	教職カルテを完成させる過程を通して、自己の課題を認識・分析でき、自分がめざす教師像を描くことができる。
	20 %	
試験（レポート提出）	:	実践的に学んだ教育の課題と成果についてレポートにまとめる。
	20 %	

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

以下の参考文献の他授業中にも適宜紹介します。
『美術科教育の基礎知識』編著　福田隆眞、福本謹一、茂木一司　建帛社 ISBN 978-536-60103-0
『中学校学習指導要領解説　美術編』　文部科学省 ISBN978-4-536-59013-6
『高等学校学習指導要領解説　芸術(音楽　美術　工芸　書道)編』　文部科学省　ISBN 978-4-49100147-0

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　金曜日昼休み

場所：　南館2階総合研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**授業の目的、授業計画、内容紹介　授業評価について　教職カルテの確認** 授業形式と授業内容の確認、および諸注意についての説明を行う。教職カルテの記入状況を各自が確認し、教育実習終了時まで記入します。 本科目の授業計画・内容、授業評価の方法、評価基準について説明します。	予習：教職カルテの準備。復習：授業全体の計画を確認して準備する。	4時間
第2回	**教育実習の振り返り①－生徒観－** 教育実習を通して、生徒たちとどのように向き合ってきたのか、各自の報告をもとに話し合いながら振り返ります。	予習：プレゼンテーションの準備をする。復習：実習の成果と課題について自己分析する。	4時間
第3回	**教育実習の振り返り②－題材観－** それぞれの学校現場で、教科内容はどのようなものであったかを振り返りながら、美術科の題材開発について理解を深めます。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が扱った題材について再検証する。	4時間
第4回	**教育実習の振り返り③－指導目標と評価基準－** 学習指導案で立てた指導目標や評価基準が、実際授業を通して生徒に伝わったか、成果の有無を含めて話し合います。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた目標について再検証する。	4時間
第5回	**教育実習の振り返り④－指導計画－** 教育実習の際にどのような指導計画を立てたか、またそれは実行できたか。成果と反省点を話し合います。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた指導計画について再検証する。	4時間
第6回	**教育実習の振り返り⑤－生徒指導－** 実習中の生徒指導、またその他の教師の仕事について、各自の体験をもとに話し合います。	予習：プレゼンテーションの準備。復習：授業を踏まえ、自分が立てた指導計画について再検証する。	4時間
第7回	**外部講師による講義** 学校教育の現場で起こる諸問題について、外部講師の方に講義していただきます。経営学部の『教職実践演習』との合同授業を実施します。	教師という職業に対する自分の考えをレポートにまとめる。	4時間
第8回	**外部講師による演習** 外部講師の方を交えて、教師に求められる資質について話し合います。経営学部の『教職実践演習』との合同授業を実施します。 中間ルーブリックの実施、学生へフィードバックします。	教師に求められる資質について、自分の考えをレポートに書く。	4時間
第9回	**事例研究・ロールプレイング(1)事例の交流と発表 準備** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、現在の教育問題から、把握しておくべき点について学びます。	予習:興味のある現在の教育問題に関する記事を収集し、要約しておいてくださ い。 復習:授業であげられた教育問題へ の対応について、自身の課題をあげ、まとめてください	4時間
第10回	**事例研究・ロールプレイング(2)発達障害を持つ生 徒との関わりについて**	予習:事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。 復 習:ロールプレイングの反省点などをあ げ、自身の課題をまとめてください。	4時間

	事例の検討やロールプレイングなどを通して、子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができるようになる。		
第11回	**例研究・ロールプレイング(3)いじめ・不登 校の生徒への関わりについて** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、いじめ・不登校などの問題と学級経営に必要な個々の子どもの特性や状況に応じた対応を修得しているかを確認します。	予習:事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。 復 習:ロールプレイングの反省点などをあ げ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第12回	**事例研究・ロールプレイング(4)保護者との関 係と教師の対応について** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、保護者や地域の関係者と良好な人間関係構築の重要性を理解しているかを確認します。	予習:事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。 復 習:ロールプレイングの反省点などをあ げ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第13回	**事例研究・ロールプレイング(5)キャリア教育** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、保護者や地域の関係者と良好な人間関係構築の重要性を理解しているかを確認します	予習:事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。 復 習:ロールプレイングの反省点などをあ げ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第14回	**教職履修カルテの記入と点検及び教師に必要な資質と能力についてのまとめと振り返り** 教職カルテの記入内容の最終確認を行い、履修カルテを完成させます。 教職課程全体を通して、各自が理想の教師像を明確にすることができたか、どのような実践的指導力が身についたかを考察します。	予習:教職カルテのすべての項目を記入し ておいてください。教職課程全体を振り返り、4年 間で達成された自身の課題を振り返ってお いてください。復習:完成された履 修カルテを読んで、自身の課題を整理して ください。現代における教 師をとりまく仕事や課題の複合性、多様 性についての課題レポートを作成・提出し てください。	4時間

714

授業科目名	**教職実践演習（中学校、高等学校）**				
担当教員名	小島大輔				
学年・コース等	4年	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

授業概要

本講義では、将来教壇に立つ上で自身に不足していると思われる事項の知識・技能の補充を行うとともに、今後の教員生活に向けて自らが特に必要と感じる資質・能力について、実践的かつ発展的な課題に取り組むなかで資質・能力の深化を図る。さらに教育実習の経験をふまえ、それまでに履修した教職の諸科目における理論と実践の架橋を図り、教職科目と専門科目の知識・技術の統合を試みる。
教職専門科目担当教員、教科教育・教科専門科目担当教員、および教育実習担当教員の緊密な連携・協力を得ながら、個々の学生の課題を明確にし、その克服を目指す授業を行っていく。また、大学と各教育委員会とで締結された協定を基にした密接な連携・協力体制の下、ゲスト・ティーチャーとして現職教員等の派遣を依頼して授業でのレクチャーを行ってもらうなど、より実践的な内容になるよう努めていく。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	実践的指導力（生徒理解、学級運営、教科内容の指導力など）	教育実習の経験をもとに実際の教育現場で直面する諸問題について理解し、実践的な対応策を考えることができる。
汎用的な力		
1. 全学DP４.課題発見		学び続ける教師として自己を位置付け、自分自身の現時点での課題に向き合うことができる。
2. 全学DP９.役割理解・連携行動		教職に就くものとしての資質を高め、教師としての使命感・責任感を持つことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
課題レポート	40 %	： 教師をとりまく仕事や課題の複合性、多様性を適切に理解しているかを評価します。
授業時に取り組む課題	30 %	： 様々な事例と自分の経験を突き合わせた省察が出来ているかなどを評価します。
教職カルテ		： 自身の課題を具体的に把握し、それらへの向き合い方を見出すことができているかなどを評価します。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

教職実践演習ワークブック―ポートフォリオで教師力アップ（西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也著、ミネルヴァ書房(2013)、ISBN:9784623066513)
そのほか、適宜各テーマにあわせて参考書を提示したり、参考資料を配布する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜４限

場所： 西館４階研究室

備考・注意事項： なにかあれば、気軽に研究室まで来てください。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：授業の進め方と評価、教職履修カルテの確認** 教職課程における教職実践演習の位置付けと、履修カルテを活用した振り返りと自己研鑽の方法について検討します。	予習：履修カルテの記入状況を確認し、教育実習終了時まで記入しておいてください。 復習：自身の課題の把握し、本授業を通した自己研鑽の計画を作成してください。	4時間
第2回	**教育実習の振り返り（１）模擬授業・現代における教育現場の諸問題と生徒観** 模擬授業を通して、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫できたか、成果と反省点について確認します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教育実習で実施した研究授業を模擬授業する準備をしてください。 復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	4時間
第3回	**教育実習の振り返り（２）模擬授業・教科における教科内容・題材・目標・評価・指導計画** 模擬授業を通して、学習指導案の教科内容・題材・目標・評価・指導計画が実際の授業で実践できたか、成果と反省点について確認します。	予習：生徒役は、教師役より指示された模擬授業に向けた予習をしておいてください。教師役は、教育実習で実施した研究授業を模擬授業する準備をしてください。 復習：生徒役は、模擬授業に対するコメントを整理して提出してください。教師役は、生徒役のコメントを読み、模擬授業の振り返りを提出してください。	4時間
第4回	**教育実習の振り返り（３）生徒指導について** 教育実習の振り返りを通して、実習中の生徒指導において、公平かつ受容的な態度、豊かな人間的交流、発達や心身の状況に応じた指導、信頼関係の構築、学級集団の把握、規律ある学級運営などができているかを確認します。	予習：教育実習で身に付いた生徒指導に関する資質・能力を整理しておいてください。 復習：自身に必要な生徒指導に関する資質・能力をまとめてください。	4時間
第5回	**学校組織と教師の役割・校務分掌（１）分掌の実態とそれぞれの意義について** グループ討論や事例の検討を通して、教員としての職責や義務、教員組織における自己の役割を自覚することの重要性を理解しているかを確認します。	予習：教育実習で体験した校務分掌についてまとめておいてください。 復習：実習において考えた教員としての職責・義務、教員組織において果たした自己の役割について整理しましょう。	4時間
第6回	**学校組織と教師の役割・校務分掌（２）学校の「協働」について** グループ討論や事例の検討を通して、「学校」という組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力した校務運営の重要性を理解しているかを確認します。	予習：教育実習で体験した他の教員との協働についてまとめておいてください。 復習：実習において実践した他の教職員と協力した校務運営について整理しましょう。	4時間
第7回	**外部講師による講演・講義、中間評価、中間評価分析** 学校教育の現場で起こる諸問題について、外部講師の方に講義していただきます。 外部講師の方を交えて、教師に求められる資質について話し合います。	予習：教師という職業に対する自分の考えをまとめておいてください。復習：中間評価でフィードバックされた内容を分析してください。	4時間
第8回	**事例研究・ロールプレイング（１）事例の交流と発表準備** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、現在の教育問題から、把握しておくべき点について学ぶ。	予習：興味のある現在の教育問題に関する記事を収集し、要約しておいてください。 復習：授業であげられた教育問題への対応について、自身の課題をあげ、まとめてください。	4時間

第9回	**事例研究・ロールプレイング（２）発達障害を持つ生徒との関わりについて** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。	予習：事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。 復習：ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第10回	**事例研究・ロールプレイング（３）いじめ・不登校の生徒への関わりについて** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、いじめ・不登校などの問題と学級経営に必要な個々の子どもの特性や状況に応じた対応を修得しているかを確認します。	予習：事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。 復習：ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第11回	**事例研究・ロールプレイング（４）保護者との関係と教師の対応について** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、保護者や地域の関係者と良好な人間関係構築の重要性を理解しているかを確認します。	予習：事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。 復習：ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第12回	**事例研究・ロールプレイング（５）キャリア教育** 事例の検討やロールプレイングなどを通して、進路指導における学級担任の役割や実務、他の教職員との協力の在り方等を修得しているかを確認します。	予習：事例について詳細を調べ、紹介できるようにまとめておいてください。 復習：ロールプレイングの反省点などをあげ、自身の課題をまとめてください。	4時間
第13回	**教職履修カルテの記入と点検** 教職カルテの記入内容の最終確認を行い、履修カルテを完成させます。	予習：教職カルテのすべての項目を記入しておいてください。復習：完成された履修カルテを読んで、自身の課題を整理してください。	4時間
第14回	**教師に必要な資質と能力についてのまとめと振り返り** 教職課程全体を通して、各自が理想の教師像を明確にすることができたか、どのような実践的指導力が身についたかを考察する。	予習：教職課程全体を振り返り、４年間で達成された自身の課題を振り返っておいてください。 復習：現代における教師をとりまく仕事や課題の複合性、多様性についての課題レポートを作成・提出してください。	4時間

712

授業科目名	**介護体験**				
担当教員名	石井理之				
学年・コース等	3年芸術	開講期間	通年	単位数	2
授業形態	実習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	公立中学校美術科教諭、教頭、校長及び教育委員会事務局で指導主事として勤務（石井）（芸術：全14回）				

授業概要

高齢者介護および障がい者支援の基礎知識を習得し、わが国の障害者教育と障害者支援（福祉）の歴史と制度を含めた態勢について学ぶ。さらに少子高齢化の中でわが国が抱える諸問題についても考える。
社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）における事前学習、事後学習を行う。具体的には、演習的方法も一部取り入れた準備学習、実習中の指導助言、学びと課題を明確にするための事前学習をおこなう。さらに各グループごとの介護等体験の成果、反省事項のプレゼンテーション発表を事後学習の一環として実施する。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. 全学DP１.幅広い教養やスキル	教員として持つべき考え方や態度の修得。	他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度を保つことができる。
2. 全学DP２.専門的知識・技能、職業理解	支援学校、福祉施設等において必要な専門知識・技能の理解	基本的な専門知識・技能の習得
汎用的な力		
1. 全学DP９.役割理解・連携行動		特別支援学校、施設での自ら学ぼうとする意欲と態度を持つ。
2. 全学DP10.忠恕の心		社会の規範に則って行動することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

授業へは原則としてすべて出席してください。何らかの事情で欠席する場合は、シラバスや授業内での配布資料を参照し、自学により内容を確認し、必要な課題に取り組むようにしてください。なお、資格・免許取得に必要な科目は、単位修得に必要な授業時間数が定められている場合がありますので、注意してください。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
実習日誌、まとめ	40 %	： 実習日誌、発表まとめの記述内容から、他者の尊厳を尊重して共感的に接する態度について評価する。
実習への参加	50 %	： 特別支援学校、施設での自ら学ぼうとする意欲を評価する。
期末レポート作成	10 %	： 実習で学んだことを通して、教員としての態度、意欲が涵養されているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

授業で必要な資料を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。

増田雅暢他　『よくわかる社会福祉施設』第5版　全国社会福祉協議会　2018 ISBN:9784793512773
「HOW TO 介護」　大阪府社会福祉協議会

履修上の注意・備考・メッセージ

介護等体験は、欠席厳禁。
学外実習のため、欠席は許されないことを十分承知して履修すること。

本科目は2単位の科目であるため、全体で90時間の学修が求められる。実習に参加するだけでなく、日々の準備や振り返り、事前・事後学修にも十分に力を入れること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　火曜日４限(小島)　　金曜日４限(石井)

場所：　西館４階研究室（小島）　南館2階研究室(石井)

備考・注意事項：　上記以外に質問などあるときはメールにて。Eメールには氏名と所属、学籍番号、「介護体験について」を必ず明記してください。講義の前後でも質問を受け付けます。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**介護等体験についての概要理解** 介護等体験のテーマ・目標、概要、実習先について確認する。（経営：小島、芸術：石井）	予習：シラバスを読み到達目標を確認する。復習：資料の該当箇所を読み返しておく。	4時間
第2回	**特別支援学校と体験学校の事前学習（特別支援学校の理解と介護等体験に向けての学習）** 特別支援教育・学校の現状について学び、実習先の学校の詳細について確認する。（経営：小島、芸術：石井）	予習：特別支援教育の概要を調べておく。復習：実習先の学校の詳細を調べ、整理しておく。	4時間
第3回	**特別支援学校での介護等体験（特別支援学校での実習1回目）** 特別支援学校にて実習校の指導教員の指示に従って、第１日目の実習に真摯に取り組む。（経営：小島、芸術：石井）	予習：第１日目の実習に向けて準備する。復習：第１日目の実習を整理しておく。	4時間
第4回	**特別支援学校での介護等体験（特別支援学校での実習2回目）** 特別支援学校にて実習校の指導教員の指示に従って、第２日目の実習に真摯に取り組む。（経営：小島、芸術：石井）	予習：第２日目の実習に向けて準備する。復習：第２日目の実習を整理しておく。	4時間
第5回	**介護等体験記録（実習の整理とまとめ）** 特別支援学校での介護等体験の内容について整理し、その成果、課題、改善点をまとめる。（経営：小島、芸術：石井）	予習：２日間の実習を整理しておく。復習：実習の振り返りをまとめておく。	4時間
第6回	**特別支援学校体験の反省、特別支援学校の事後学習、介護等体験の振り返り** 特別支援学校での実習の事後学習として、介護等体験の振り返りを共有し、介護等体験の反省を行う。（経営：小島、芸術：石井）	予習：介護等体験記録を共有できるよう整理しておく。復習：介護等体験記録を推敲する。	4時間
第7回	**社会福祉施設の事前学習（社会福祉施設に向けての学習）** 社会福祉施設の現状について学び、実習先の施設の詳細について確認する。（経営：小島、芸術：石井）	予習：日本の社会福祉制度を調べておく。復習：実習先の施設の詳細を調べ、整理しておく。	4時間
第8回	**社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での実習1回目）** 社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第１日目の実習に真摯に取り組む。（経営：小島、芸術：石井）	予習：第１日目の実習に向けて準備する。復習：第１日目の実習を整理しておく。	4時間
第9回	**社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での実習2回目）** 社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第２日目の実習に真摯に取り組む。（経営：小島、芸術：石井）	予習：第２日目の実習に向けて準備する。復習：第２日目の実習を整理しておく。	4時間
第10回	**社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での実習3回目）** 社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第３日目の実習に真摯に取り組む。（経営：小島、芸術：石井）	予習：第３日目の実習に向けて準備する。復習：第３日目の実習を整理しておく。	4時間
第11回	**社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での実習4回目）** 社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第４日目の実習に真摯に取り組む。（経営：小島、芸術：石井）	予習：第４日目の実習に向けて準備する。復習：第４日目の実習を整理しておく。	4時間
第12回	**社会福祉施設での介護等体験（社会福祉施設での実習5回目）** 社会福祉施設にて施設の指導教員の指示に従って、第５日目の実習に真摯に取り組む。（経営：小島、芸術：石井）	予習：第５日目の実習に向けて準備する。復習：第５日目の実習を整理しておく。	4時間
第13回	**介護等体験のまとめ（社会福祉施設での介護等体験の振り返りとまとめ）** 社会福祉施設での介護等体験の内容について整理し、その成果、課題、改善点をまとめる。（経営：小島、芸術：石井）	予習：５日間の実習を整理しておく。復習：実習の振り返りをまとめておく。	4時間
第14回	**事後学習（各班で社会福祉施設での体験の成果、課題、改善点の発表と相互理解）**	予習：事後発表の準備を進める。復習：介護等体験記録を推敲する。	4時間

社会福祉施設での実習の事後学習として、社会福祉施設での体験の成果、課題、改善点をパワーポイント等で発表し相互理解を深める。（経営：小島、芸術：石井）		